

令和7年度

学修要項

(Phase I)

1年次生用

佐賀大学医学部医学科

佐賀大学憲章

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します

魅力ある大学

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます

創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します

社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します

検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします

目 次

1. 佐賀大学憲章（表紙裏）	
2. 教育の概要	
佐賀大学医学部の使命・理念・目的・卒業時学修成果	1
医学部医学科修得課程表（ロードマップ）	3
医学部医学科カリキュラム模式図（令和5年度以降入学生）	7
医学部医学科授業科目開設表（令和5年度以降入学生）	8
令和7～8年度医学科フェイズチェアパーソン及びコ・チェアパーソン一覧表	10
3. 教育・評価に関する規定等	
進級・卒業認定方法の周知について	11
成績評価の異議申立てについて	12
佐賀大学医学部試験の実施に関する内規	14
佐賀大学学部医学科の授業科目等の履修に係る資格要件に関する内規	16
佐賀大学医学部規則について	17
佐賀大学学生の懲戒等実施細則について	18
4. 1年次生の学修指針等	
Phase I における学修の目的と学修内容の概要	21
令和7年度医学科1年次日程表	23
シラバスの見かた	25
5. 授業科目の学修指針等	
大学入門科目	
医療入門Ⅰ	27
専門基礎科目	
生命倫理学	31
行動科学原論	34
医療統計学	37
物理学	40
化学	44
生物学	47

Phase II のうち， 1 年次に履修する授業科目の学修指針等

分子生物学Ⅰ	51
分子生物学Ⅱ	54
人体発生学	58
肉眼解剖学概説	60

Phase V のうち， 1 年次で履修できる選択コースについて

選択コースの実施及び履修に関する取扱要項	63
地域枠入学生特別プログラム	65

6. 学位授与の方針／教育課程編成・実施の方針

医学部医学科学学位授与の方針	71
医学部医学科教育課程編成・実施の方針	72

7. その他

コースナンバリングについて	75
アクティブラーニングについて	77

8. オフィスアワー 一覧（オフィスアワーについて）

79

2 教育の概要

佐賀大学医学部の使命・理念・教育目的・卒業時学修成果

医学部の使命

医及び看護の実践とその科学的創造形成の過程を通じて医学及び看護学の知識技術並びに医師又は看護職者たるにふさわしい態度を習得し、かつ、これらを生涯にわたって創造発展させることのできる人材を養成することを目的とし、もって医学及び看護学の水準及び地域医療の向上に寄与する。

医学部の基本理念

医学部に課せられた教育・研究・診療の三つの使命を一体として推進することによって、社会の要請に応えうる良き医療人を育成し、もって医学・看護学の発展及び地域包括医療の向上に寄与する。

医学科の教育目的

医の実践において、強い生命倫理観に基づくとともに広い社会的視野の下に包括的に問題をとらえ、その解決を科学的・創造的に行うような医師を育成する。

医学科の卒業時学修成果

佐賀大学医学部医学科は、以下のような能力を備えた卒業生を輩出する。

1. プロフェッショナリズム
2. 医学的知識
3. 安全で最適な医療の実践
4. コミュニケーションと協働
5. 国際的な視野に基づく地域医療への貢献
6. 科学的な探究心

卒業時学修成果の内容

1 プロフェッショナリズム

佐賀大学医学部医学科の卒業生は、卒業時に

医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。

- 1.1 医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる。
- 1.2 患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる。
- 1.3 患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる。
- 1.4 医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる。
- 1.5 自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学修の習慣を身に付けている。

2 医学的知識

佐賀大学医学部医学科の卒業生は、卒業時に

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学修し、問題解決に応用できる。

- 2.1 人間のライフサイクル
- 2.2 人間の心理と行動

2.3 人間の正常な構造と機能

2.4 人間の機能的・構造的異常状態と原因

2.5 治療の原理と適応

2.6 疾病の疫学, 予防

3 安全で最適な医療の実践

佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に

患者の安全を最優先し, 根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。

3.1 医療面接, 基本的身体診察を実施し臨床推論ができる。

3.2 必要な検査を選択し, 適切に実施・解釈できる。

3.3 最適な医療情報を患者に適用し, 適切に診断・治療計画を立案することができる。

3.4 問題志向型診療記録を作成し, 正確かつ簡潔に症例提示ができる。

3.5 医療安全に配慮し, 医療チームの一員として診療に参画できる。

3.6 医療制度, 医療経済を理解し, 最適な医療提供のために活用できる。

4 コミュニケーションと協働

佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に

患者の価値観を尊重し, 他の医療者と円滑に協働することができる。

4.1 患者の心理社会的背景を理解し, 良好な患者医師関係を築くことができる。

4.2 医療チーム内で信頼関係を築き, 目的達成のために役割を果たすことができる。

4.3 専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる。

4.4 患者の意思決定を支援するために, 必要な情報を提供し同意を得ることができる。

4.5 他者に建設的な批判ができ, 他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる。

4.6 後進のロールモデルとなるべく行動し, 医療者育成に参画することができる。

5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献

佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に

国際的な視野で医療の発展を理解し, 地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。

5.1 個人, 地域社会, 国際社会における価値観や文化の多様性を理解している。

5.2 医療の国際化を理解し, 英語での情報収集, 情報発信ができる。

5.3 地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している。

5.4 地域の特性や多様なニーズを理解し, 地域の急性期および慢性期医療に参画できる。

6 科学的な探究心

佐賀大学医学部医学科の卒業生は, 卒業時に

医療・医学の発展に貢献すべく, 科学的な探究心と方法論を身につけている。

6.1 医学的研究(基礎研究, 臨床研究, 疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる。

6.2 未解決の医療・医学的問題に着目し, 解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている。

6.3 問題解決のために情報の質を吟味し, 論理的・批判的な思考ができる。

佐賀大学医学部医学科 修得課程表(ロードマップ)

	A: 医療現場で実践できる (Does) ☒ B: 基本的な技能・態度を身につけている (shows how) ☐ C: 基盤となる知識・技能・態度を理解している (knows, knows how) ☐		教養教育科目							専門教育科目						
			Phase I													
		区分	共通基礎科目				基本教養科目			専門基礎科目						
		単位数	4	4	2	1	14		8	2	2	2	1	2	3	3
		履修学年	1	1	1	1	1-2	1-2	1-2	1	1	2	1	1	1	1
	授業科目	医療入門Ⅰ	英語	情報基礎概論	情報基礎演習Ⅰ	自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野	インターネット・フェイス科目	生命倫理学	行動科学原論	医療入門Ⅱ	医療統計学	物理学	化学	生物学
1 プロフェッショナリズム																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。																
1.1	医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる															
1.2	患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる															
1.3	患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる															
1.4	医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる															
1.5	自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学修の習慣を身に付けている															
2 医学的知識																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学習し、問題解決に応用できる。																
2.1	人間のライフサイクル															
2.2	人間の心理と行動															
2.3	人間の正常な構造と機能															
2.4	人間の機能的・構造的異常状態と原因															
2.5	治療の原理と適応															
2.6	疾病の疫学、予防															
3 安全で最適な医療の実践																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の安全を最優先し、根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。																
3.1	医療面接、基本的身体診察を実施し臨床推論ができる															
3.2	必要な検査を選択し、適切に実施／解釈できる															
3.3	最適な医療情報を患者に適用し、適切に診断・治療計画を立案することができる															
3.4	問題志向型診療記録を作成し、正確かつ簡潔に症例提示ができる															
3.5	医療安全に配慮し、医療チームの一員として診療に参画できる															
3.6	医療制度、医療経済を理解し、最適な医療提供のために活用できる															
4 コミュニケーションと協働																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の価値観を尊重し、他の医療者と円滑に協働することができる。																
4.1	患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる															
4.2	医療チーム内で信頼関係を築き、目的達成のために役割を果たすことができる															
4.3	専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる															
4.4	患者の意思決定を支援するために、必要な情報を提供し同意を得ることができる															
4.5	他者に建設的な批判ができ、他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる															
4.6	後進のロールモデルとなるべく行動し、医療者育成に参画することができる															
5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に国際的な視野で医療の発展を理解し、地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。																
5.1	個人、地域社会、国際社会における価値観や文化の多様性を理解している															
5.2	医療の国際化を理解し、英語での情報収集、情報発信ができる															
5.3	地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している															
5.4	地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の急性期および慢性期医療に参画できる															
6 科学的な探求心																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医療・医学の発展に貢献すべく、科学的な探求心と方法論を身につけている。																
6.1	医学的研究 (基礎研究、臨床研究、疫学研究) の方法論と倫理を理解し遵守できる															
6.2	未解決の医療・医学的問題に着目し、解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている															
6.3	問題解決のために情報の質を吟味し、論理的・批判的な思考ができる															

佐賀大学医学部医学科 修得課程表(ロードマップ)

		専門教育科目														
		Phase II														
		基礎医学科目														
		単位数	2	3	2	1	4	2	2	4	2	3	3	3	3	
履修学年		1	1	2	1	2	2	1	2	2	2	2	2	2		
A: 医療現場で実践できる (Does) ☒ B: 基本的な技能・態度を身につけている (shows how) ☐ C: 基礎となる知識・技能・態度を理解している (knows, knows how) ☐		授業科目	分子生物学Ⅰ	分子生物学Ⅱ	免疫学	人体発生学	組織学	神経解剖学	肉眼解剖学概説	肉眼解剖学	生化学	動物性機能生理学	植物性機能生理学	薬理学	微生物学	病理学
1 プロフェッショナリズム																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。																
1.1	医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる															
1.2	患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる															
1.3	患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる															
1.4	医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる															
1.5	自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学習の習慣を身に付けている															
2 医学的知識																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学習し、問題解決に応用できる。																
2.1	人間のライフサイクル															
2.2	人間の心理と行動															
2.3	人間の正常な構造と機能															
2.4	人間の機能的・構造的異常状態と原因															
2.5	治療の原理と適応															
2.6	疾病の疫学、予防															
3 安全で最適な医療の実践																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の安全を最優先し、根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。																
3.1	医療面接、基本的身体診察を実施し臨床推論ができる															
3.2	必要な検査を選択し、適切に実施／解釈ができる															
3.3	最適な医療情報を患者に適用し、適切に診断・治療計画を立案することができる															
3.4	問題志向型診療記録を作成し、正確かつ簡潔に症例提示ができる															
3.5	医療安全に配慮し、医療チームの一員として診療に参画できる															
3.6	医療制度、医療経済を理解し、最適な医療提供のために活用できる															
4 コミュニケーションと協働																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の価値観を尊重し、他の医療者と円滑に協働することができる。																
4.1	患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる															
4.2	医療チーム内で信頼関係を築き、目的達成のために役割を果たすことができる															
4.3	専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる															
4.4	患者の意思決定を支援するために、必要な情報を提供し同意を得ることができる															
4.5	他者に建設的な批判ができ、他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる															
4.6	後進のロールモデルとなるべく行動し、医療者育成に参画することができる															
5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に国際的な視野で医療の発展を理解し、地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。																
5.1	個人、地域社会、国際社会における価値観や文化の多様性を理解している															
5.2	医療の国際化を理解し、英語での情報収集、情報発信ができる															
5.3	地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している															
5.4	地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の急性期および慢性期医療に参画できる															
6 科学的な探求心																
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医療・医学の発展に貢献すべく、科学的な探求心と方法論を身につけている。																
6.1	医学的研究(基礎研究、臨床研究、疫学研究)の方法論と倫理を理解し遵守できる															
6.2	未解決の医療・医学的問題に着目し、解決に取り組む積極的な姿勢を身につけている															
6.3	問題解決のために情報の質を吟味し、論理的・批判的な思考ができる															

		専門教育科目																				
A:医療現場で実践できる(Does) ☒ B:基本的な技能・態度を身につけている(shows how) ☐ C:基盤となる知識・技能・態度を理解している(knows, knows how) ☐				PhaseⅢ 機能・系統別PBL科目										PhaseⅤ 選択コース								
		区分																				
		単位数		7	4	3	4	4	4	3	4	4	4	4	6	3	2	6				
		履修学年		3-4	3	3	3	3	3	3	3	3-4	4	3-4	4	4	3-4	選 基礎系・臨床系選択科目	選 地域枠入学生特別プログラム	選 特定プログラム教育科目	選 学外研修・ボランティア等	6 総括講義
授業科目		臨床医学入門	循環器	呼吸器	消化器	代謝・内分泌・腎・泌尿器	血液・腫瘍・感染症	皮膚・膠原	運動・感覚器	精神・脳・神経	小児・女性	3-4 救急・麻酔・総合診療	社会医学・医療社会法制	統合医療	医学英語							
1 プロフェッショナリズム																						
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医師の職責を理解し、患者中心の医療を推進すべく行動できる。																						
1.1	医師の職責を理解し、倫理的・法的な規範に則った行動をとることができる																					
1.2	患者や家族の価値観と権利を尊重した患者中心の医療を推進できる																					
1.3	患者のプライバシーを守り、利益相反の生じる可能性に配慮して職務を遂行できる																					
1.4	医療人への社会的期待を理解し、誠実で責任感のある態度で行動できる																					
1.5	自らの実践を省察し、課題の発見と改善に努める自己主導型学修の習慣を身に付けている																					
2 医学的知識																						
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学を統合的に学習し、問題解決に応用できる。																						
2.1	人間のライフサイクル																					
2.2	人間の心理と行動																					
2.3	人間の正常な構造と機能																					
2.4	人間の機能的・構造的異常状態と原因																					
2.5	治療の原理と適応																					
2.6	疾病の疫学、予防																					
3 安全で最適な医療の実践																						
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の安全を最優先し、根拠に基づく効果的な医療を実践することができる。																						
3.1	医療面接、基本的身体診察を実施し臨床推論ができる																					
3.2	必要な検査を選択し、適切に実施／解釈できる																					
3.3	最適な医療情報を患者に適宜し、適切に診断・治療計画を立案することができる																					
3.4	問題志向型診療記録を作成し、正確かつ簡潔に症例提示ができる																					
3.5	医療安全に配慮し、医療チームの一員として診療に参加できる																					
3.6	医療制度、医療経済を理解し、最適な医療提供のために活用できる																					
4 コミュニケーションと協働																						
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に患者の価値観を尊重し、他の医療者と円滑に協働することができる。																						
4.1	患者の心理社会的背景を理解し、良好な患者医師関係を築くことができる																					
4.2	医療チーム内で信頼関係を築き、目的達成のために役割を果たすことができる																					
4.3	専門の異なる医師や他職種の医療者と円滑に連携することができる																					
4.4	患者の意思決定を支援するために、必要な情報を提供し同意を得ることができる																					
4.5	他者に建設的な批判ができ、他者からの評価や助言を謙虚に受け止めることができる																					
4.6	後進のロールモデルとなるべく行動し、医療者育成に参画することができる																					
5 国際的な視野に基づく地域医療への貢献																						
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に国際的な視野で医療の発展を理解し、地域の特性に応じた医療の維持・発展に貢献できる。																						
5.1	個人、地域社会、国際社会における価値観や文化の多様性を理解している																					
5.2	医療の国際化を理解し、英語での情報収集、情報発信ができる																					
5.3	地域の保健・医療・福祉の関連諸機関の適切な連携を理解している																					
5.4	地域の特性や多様なニーズを理解し、地域の急性期および慢性期医療に参画できる																					
6 科学的な探求心																						
佐賀大学医学部の卒業生は、卒業時に医療・医学の発展に貢献す																						

— 6 —

医学部医学科カリキュラム模式図（令和5年度以降入学生）

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
大学入門科目Ⅰ (医療入門Ⅰ)2-(1,3)		医療入門Ⅱ		Unit1 臨床医学入門							
基本教養科目 インターフェース科目		1-(1,2) 2-(1,3),3-(1,2)									
外国語科目 1-(2)		免疫学		Unit2 循環器	Unit6 血液・腫瘍・感染症	Unit10 小児・女性			臨床実習		
情報リテラシー 科目1-(2)		組織学		Unit3 呼吸器	Unit7 皮膚・膠原	Unit11 救急・麻酔・総合診療			地域医療実習		
生命倫理学		神経解剖学		Unit4 消化器	Unit8 運動・感覚器	Unit12 社会医学・医療社会法制			関連教育病院実習		
行動科学原論		生化学		Unit5 代謝・内分泌・腎・泌尿器	Unit9 精神・脳・神経	Unit13 統合医療			◆臨床実習後 OSCE		
物理学		動物性機能生理学				臨床実習					
生物学		植物性機能生理学									
化学											
分子生物学Ⅰ		肉眼解剖学概説		医学英語				基礎系・臨床系 選択科目			
				特定プログラム教育科目							
				基礎系・臨床系選択科目							
				地域枠入学生特別プログラム							
17単位	15単位	16単位	13単位	15単位	11単位	21単位	60単位		8単位		
18単位		6単位		9単位							

※上記単位数は標準修得単位数（選択コース6単位除く），教養教育科目及び各Phaseに付した番号は，学位授与の方針

Phase I
1-(2)

Phase II
1-(3)

Phase III
2-(2,3)

Phase IV
2-(2,3)
3-(2,3)

Phase V
2-(2)

授 業 科 目 開 設 表（令和5年度以降入学生）

医学科

教養教育科目

区 分		授 業 科 目	単 位 数	修 得 区 分	履 修 年 次												備考
					1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
大 学 入 門 科 目		大学入門科目Ⅰ(医療入門Ⅰ)	4	必	4												
		小 計	4		4												
共通基礎科目	外国語科目	英語	4	必	4												
		小 計	4		4												
	情報リテラシー科目	情報基礎概論	2	必	2												
		情報基礎演習Ⅰ	1	必	1												
		小 計	3		3												
基本教養科目	自然科学と技術の分野		14	選必	14												各分野から2単位以上修得
	文化の分野																
	現代社会の分野																
		小 計		14		14											
インターフェース科目			8	選必	8												
教 養 教 育 科 目 合 計			33														

専門教育科目

区 分	授 業 科 目	単 位 数	修 得 区 分	履 修 年 次												備 考
				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 基 礎 科 目	生命倫理学	2	必	2												
	行動科学原論	2	必	2												
	医療入門Ⅱ	2	必			2										
	医療統計学	1	必		1											
	物理学	2	必	2												
	化学	3	必	3												
	生物学	3	必	3												
	小 計	15			13		2									
基 礎 医 学 科 目	分子生物学Ⅰ	2	必	2												
	分子生物学Ⅱ	3	必		3											
	免疫学	2	必			2										
	人体発生学	1	必		1											
	組織学	4	必			4										
	神経解剖学	2	必			2										
	肉眼解剖学概説	2	必		2											
	肉眼解剖学	4	必			4										
	生化学	2	必			2										
	動物性機能生理学	3	必			3										
	植物性機能生理学	3	必			3										
	薬理学	3	必				3									
	微生物学	3	必				3									
	病理学	3	必				3									
	小 計	37			8		29									

区 分	授 業 科 目	単 位 数	修 得 区 分	履 修 年 次												備考
				1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
臨床・社会医学科目	臨床医学入門	7	必					7								PBL教育（医学英語を除く）
	循環器	4	必					4								
	呼吸器	3	必					3								
	消化器	4	必					4								
	代謝・内分泌・腎・泌尿器	4	必					4								
	血液・腫瘍・感染症	4	必						4							
	皮膚・膠原	3	必						3							
	運動・感覚器	4	必						4							
	精神・脳・神経	4	必					4								
	小児・女性	4	必							4						
	救急・麻酔・総合診療	4	必							4						
	社会医学・医療社会法制	6	必							6						
	統合医療	3	必							3						
	医学英語	2	必					2								
	小 計	56						56								
臨床実習	臨床実習	60	必							60						
	地域医療実習	4	必									4				
	関連教育病院実習	4	必									4				
	小 計	68										68				
択科目	基礎系・臨床系選択科目	6	選													
	地域枠入学生特別プログラム科目		選													
	特定プログラム教育科目		選													
	学外研修・ボランティア等		選													
	小 計	6														
専 門 教 育 科 目 合 計		182														

令和 7 ～ 8 年度 医学科フェイズチェアパーソン 及びコ・チェアパーソン一覧表

フェイズ	職 名	氏 名
フェイズⅠ	チェアパーソン	川 口 淳
	コ・チェアパーソン	坂 本 麻衣子
フェイズⅡ	チェアパーソン	吉 田 裕 樹
	コ・チェアパーソン	宮 本 比呂志
フェイズⅢ	チェアパーソン	小 田 康 友
	コ・チェアパーソン	江 崎 幹 宏
フェイズⅣ	チェアパーソン	多 胡 雅 毅
	コ・チェアパーソン	小 網 博 之
フェイズⅤ	チェアパーソン	副 島 英 伸
	コ・チェアパーソン	福 森 則 男

3 教育・評価に関する規定等

進級・卒業認定方法の周知について

(医学科)

進級について

【進級要件】

医学科においては、1年次から2年次、2年次から3年次、4年次から5年次への進級要件がそれぞれ定められています。

[本冊子「佐賀大学学部医学科の授業科目等の履修に係る資格要件に関する内規」参照]

在学年限は10年と定められています。ただし、1年次及び2年次の在学年限は、同一年次において2年を超えることはできません。

[学生便覧「佐賀大学学則」参照]

【進級判定】

進級判定は、3月の教授会において行います。その結果については、3月下旬に掲示にて通知します。

卒業について

【卒業要件】

医学科を卒業するためには、6年以上在学（休学期間は含めない。）し、所定の単位を修得し、臨床実習後OSCE及び総括講義に合格しなければなりません。

[本冊子「授業科目開設表」参照]

【卒業判定】

卒業判定は、1月の教授会において行います。その結果については、1月中旬に掲示にて通知します。

成績評価の異議申立てについて

佐賀大学学生の成績評価の異議申立ての手続きに関する要項

(平成19年 1 月30日制定)

(趣旨)

第1 この要項は、佐賀大学成績判定等に関する規程（平成16年 4 月 1 日制定）第2条第2項により行われる佐賀大学（以下「本学」という。）の学生の成績評価について、本学の学生（学生であったものを含む。以下同じ。）が自身の成績評価に対して異議を申し立てる場合の手続き等に関し必要な事項を定めるものとする。

(異議の申立て)

第2 学生が、自身の成績評価に対して異議がある場合は、成績通知後 1 月以内（やむを得ない事情がある場合には、2 月以内）に、授業科目を開講する当該学部等（以下「当該学部等」という。）の学部長等（教養教育科目にあつては、全学教育機構長、大学院の授業科目にあつては研究科長とする。以下同じ。）に異議を申立てることができる。

2 前項の申立ては、学務部教育企画課、教務課又は医学部学生課の担当窓口において、所定の様式により行うものとする。

(異議申立てへの対応等)

第3 学部長等は、第2の手続きにより学生から異議申立てがあつた場合には、当該学部等の教育に関する委員会（以下「委員会」という。）に異議申立ての内容等の調査・検討を行わせるものとする。

2 前項の委員会による調査・検討は、当該授業科目の試験問題、答案、課題、学生が提出したレポートその他授業及び成績評価に用いた資料（以下「成績評価資料等」という。）並びに当該授業科目を担当した教員に対するヒアリングにより行うものとし、委員会は、その調査結果を学部長等に報告しなければならない。

3 第1項の委員会による調査・検討は、異議申立てがあつた日から起算して、原則、1 月以内に終えるものとする。

4 本学において授業を担当する教員は、教育活動の正当性を証明するとともに、前項の調査・検討の可能性を確保するため、国立大学法人佐賀大学法人文書管理規定（平成23年 3 月23日制定）に基づき当該授業科目の成績評価資料等を保存・管理しなければならない。

第4 学部長等は、第3の委員会による調査・検討結果の結果報告に基づき、教授会（教養教育科目にあつては、全学教育機構運営委員会、大学院の授業科目にあつては、研究科委員会）の議を経て、異議の認否及び成績評価の取扱いを決定し、速やかに当該学生及び授業担当教員に通知するものとする。

(再度の異議の申立て)

第5 学生は第4の決定に対して、再度、異議を申し立てることはできない。

(雑則)

第6 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、当該学部等において別に定める。

附 則

この要項は、平成19年 2 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は、平成22年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は、平成25年4月1日から実施する。

附 則（平成26年2月1日改正）

この要項は、平成26年4月1日から実施する。

附 則（平成27年12月21日改正）

この要項は、平成27年12月21日から実施する。

附 則（平成29年9月26日改正）

この要項は、平成29年9月26日から実施し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成31年2月14日改正）

この要項は、平成31年2月14日から実施し、平成30年4月1日から適用する。

附 則（令和4年3月30日改正）

この要項は、令和4年4月1日から実施する。

附 則（令和6年6月21日改正）

この要項は、令和6年6月21日から実施し、令和6年4月1日から適用する。

佐賀大学医学部試験の実施に関する内規

(令和3年12月15日 制定)

(趣旨)

第1条 佐賀大学医学部履修細則第5条における各授業科目の試験の実施については、この内規の定めるところによる。

(試験の実施時期)

第2条 試験を実施する場合は、試験実施の告示を原則として実施日の2週間前に掲示するものとする。

(試験の種別)

第3条 各授業科目において実施する試験の種別は、本試験、追試験及び再試験とする。

2 試験は、各授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が実施するものとする。

(本試験)

第4条 本試験を受験できる者は、当該各授業科目の担当教員から受験資格を認められた者とする。ただし、複数の教員が担当する授業科目の場合は、当該授業科目の教科主任がその認定を行うものとする。

2 前項の規定により、本試験の受験資格を認められなかった者は、再履修をしなければならない。

3 前項の規定により、再履修を課せられた者は、再履修届を提出しなければならない。

(追試験)

第5条 追試験は、本試験の受験資格を有し、かつ、傷病その他やむを得ない理由により本試験を欠席した者で、当該授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が認めた者に限り、受験することができるものとする。

2 前項の理由に該当し、本試験を欠席する者は、あらかじめ試験欠席届及び医師の診断書又は理由書（その理由を記載し、説明できるもの）を提出しなければならない。ただし、やむを得ない事情により、事前に提出できなかった者は、遅延理由書を添付して、可及的速やかに手続を行わなければならない。

3 追試験は、当該年度において実施される当該授業科目の再試験の際に行うものとする。

(再試験)

第6条 再試験は、本試験又は追試験の不合格者のうち、あらかじめ再試験受験願を提出した者で、当該授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が認めた者に限り、受験することができるものとする。ただし、本試験（追試験該当者を除く。）を無断で欠席した者は、当該学期において実施される当該授業科目の再試験は受験することができない。

2 再試験は、当該授業科目の開講期内に原則として1回のみ行うものとする。

3 再試験における合格の評価は、「可」とする。ただし、次年度以降に当該授業科目を受講した場合において、その授業科目の担当教員（教科主任を含む。）が教育上の見地から必要と判断したときに限り、「可」より上位の評価を与えることができる。

(追試験又は再試験の不合格者の取扱)

第7条 当該学期内に実施される追試験又は再試験を受験し、不合格となった者は、次年度以降に実施される試験を、再試験として受験させることができる。

2 前項の規定により、再試験を受験する者は、試験科目ごとに再試験受験願を提出しなければならない。

(不正行為の取扱)

第8条 各授業科目の試験において、不正行為があった場合は、次により措置する。

(1) 試験において、不正行為と認められる行為があったときは、当該学生がその年度において受講する全ての授

業科目の履修（受講）及び試験を無効とし、原級に留めおく。ただし、前年度以前に履修（受講）した授業科目については、試験のみを無効とすることがある。

(2) 不正行為の内容によっては、佐賀大学学則第39条の規定により処分することがある。

(3) 本項の適用に疑義があるときは、教育委員会において審議する。

附 則

この内規は、令和3年12月15日から施行する。

佐賀大学医学部医学科の授業科目等の履修に係る 資格要件に関する内規

(令和3年12月15日 制定)

(趣旨)

第1条 佐賀大学医学部履修細則第6条における授業科目等の履修に係る資格要件については、この内規の定めるところによる。

(医学科の2年次に開講される授業科目を履修するための資格要件)

第2条 2年次に開講される授業科目を履修することができるのは、1年次の学年末までに開講される科目のうち、大学入門科目、共通基礎科目の全て及び専門教育科目の必修科目を修得した者とする。

2 前項により資格を認められなかった者は、原級に留まり、原則として未修得の科目を再履修しなければならない。

(医学科の3・4年次に開講される授業科目を履修するための資格要件)

第3条 3年次及び4年次に開講される授業科目を履修することができるのは、2年次の学年末までに開講される科目のうち、教養教育科目の全て及び専門教育科目の必修科目を修得している者とする。

2 前項により資格を認められなかった者は、原級に留まり、原則として未修得の科目を再履修しなければならない。

(医学科の臨床実習を行うための資格要件)

第4条 5年次以降に実施される臨床実習を行うことができる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、健康診断の結果、実習に支障がないと認められた者とする。

(1) 4年次の学年末までに開講される授業科目のうち、教養教育科目の全て及び専門教育科目の必修科目を修得し、かつ、共用試験のCBT及びOSCEに合格した者

(2) 前号のほか、教授会において、特にその資格を認められた者

2 前項各号のいずれかに該当し、その資格を認められた者には、「Student Doctor (略称:S.D.)」の呼称を与え、臨床実習適格認定書を授与する。

3 第1項により資格を認められなかった者は、原級に留まり、原則として未修得の科目を再履修しなければならない。

(医学科の6年次に開講される総括講義を受験するための資格要件)

第5条 臨床実習に合格した者のみが総括講義を受講することができる。

(医学科の6年次に実施される臨床実習後OSCE等の取扱)

第6条 医学科を卒業するためには、佐賀大学医学部規則第13条の要件に加えて、臨床実習後OSCE及び総括講義に合格することを必要とする。

2 前項本文の規定にかかわらず、令和4年度以前に入学した者については、医学科を卒業するためには、佐賀大学医学部規則第13条の要件に加えて、臨床実習後OSCEに合格することを必要とする。

附 則

この内規は、令和3年12月15日から施行する。

附 則 (令和5年3月15日改正)

この内規は、令和5年4月1日から施行する。

佐賀大学医学部規則について

佐賀大学医学部規則は、医学部ホームページの学部内関連情報内「医学部規則・関連法規」に掲載されています。

佐賀大学学生の懲戒等実施細則

(平成23年2月9日制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、佐賀大学学生の懲戒に関する規程（平成16年4月1日制定）第17条の規定に基づく懲戒の適正な実施及び厳重注意について必要な事項を定めるものとする。

(懲戒の標準例)

第2条 懲戒の標準例については、別表左欄に掲げる懲戒対象行為の区分及び同表中欄に掲げる行為の内容に応じて、同表右欄に掲げる懲戒の種類のとおりとする。

(懲戒の具体的な種類の決定)

第3条 前条に定める懲戒の具体的な種類の決定に当たっては、その原因となった行為の動機及び態様並びに社会に与えた影響等を、総合的に検討し、教育的観点を踏まえ判断するものとする。

(厳重注意)

第4条 学生が、懲戒対象行為以外の行為で学生としてあるまじき行為をした場合において、当該行為を行った学生の所属する学部又は研究科（以下「各学部等」という。）の長は、各学部等の教授会の議を経て、厳重注意を行うことができる。

2 厳重注意は、口頭又は文書により行うものとする。

(教育的措置)

第5条 各学部等の長は、停学又は出席停止中の学生に対して、更生のため教育的措置を講ずることができるものとする。

附 則

この細則は、平成23年2月9日から施行する。

附 則（平成28年3月25日改正）

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（令和6年3月1日改正）

この細則は、令和6年3月1日から施行する。

別表（第2条関係）

懲戒の標準例

区分	行 為 の 内 容	懲戒の種類
犯 罪 行 為	・殺人、強盗、不同意性交、放火、誘拐、障害等の凶悪な犯罪行為又はこれらの犯罪行為の未遂行為を行った場合	退学
	・窃盗、詐欺、恐喝、脅迫、強要、過失致死、過失傷害等の凶悪な犯罪行為を行った場合	退学又は停学
	・賭博、住居侵入、万引き、他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為であって、刑法（明治40年法律第45号）等に抵触する場合	停学又は訓告
	・性的な迷惑行為（痴漢、のぞき見、盗撮行為等）、わいせつ行為（公然わいせつ、わいせつ物頒布等）及び性暴力行為（不同意わいせつ等）の犯罪行為であって、刑法、軽犯罪法（昭和23年法律第39号）等に抵触する場合	退学、停学又は訓告
	・ハラスメントに起因する犯罪行為を行った場合	退学、停学又は訓告
	・ストーカー行為等の規制等に関する法律（平成12年法律第81号）に抵触する行為を行った場合	退学、停学又は訓告
	・薬物犯罪（禁止薬物の使用及び不法所持並びに禁止薬物の売買又はその仲介等及び薬物となり得る植物の栽培）を行った場合	退学又は停学
	・コンピュータ又はネットワークの不正使用等による犯罪行為を行った場合（SNS犯罪、サイバー犯罪を含む。）	退学、停学又は訓告
	・上記以外の刑罰法令に触れる行為を行った場合	退学、停学又は訓告
非 違 行 為	・本学の財物に対し、故意に著しく物的損傷を与えた場合	退学又は停学
	・一気飲み等により飲酒を強制し、重大な事態に至った場合	退学又は停学
	・20歳未満の者自らの飲酒又は20歳未満の者と知りながら飲酒をすすめた場合	停学又は訓告
	・ハラスメント行為（犯罪行為以外）を行った場合	停学又は訓告
	・上記以外の非違行為	停学又は訓告
交 通 事故等 （自動 車のほ か、バ イク及 び自転 車の場 合を含 む。）	・飲酒運転（酒気帯び運転を含む。以下同じ。）、無免許運転、大幅な制限速度超過違反（制限速度30キロ以上の超過）等の悪質な運転による死亡事故又は重度の後遺症を残す人身事故を伴う交通事故を起こした場合	退学
	・ひき逃げ、あて逃げ、飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の悪質な運転による人身事故を伴う交通事故を起こした場合	退学又は停学
	・飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の悪質な交通法規違反	停学
	・前方不注意等の相当な過失のある、死亡又は重度の後遺症を残す人身事故を伴う交通事故を起こした場合	停学
	・前方不注意等の相当な過失のある、上記以外の人身事故を伴う交通事故を起こした場合	停学又は訓告
	※上記以外の反則金に該当する道路交通法（昭和35年法律第105号）違反については、懲戒処分の対象としない。	
試 験 不 正 行為等	・本学が実施する試験等における極めて悪質な行為（替え玉受験、試験問題の不正入手等）	退学又は停学
	・本学が実施する試験等における上記以外の不正行為（ノート類や携帯電話等を不正に使用したカンニング等）	停学

区分	行 為 の 内 容	懲戒の種類
試 験 不 正 行為等	・ 本学が実施する試験等における極めて悪質な行為の教唆又はほう助行為を行った場合	退学、停学又は訓告
	・ レポート等の盗作や剽窃を行った場合	停学又は訓告
	・ 試験監督者の注意又は指示に従わなかった場合（使用を許可されていない電子機器等を所持する行為等）	訓告
研究活動上の 不正行為	・ 研究活動におけるねつ造、改ざん又は倒錯を行った場合	退学、停学又は訓告
	・ 研究にかかる公的資金（研究費）を不正使用した場合	退学、停学又は訓告

4 1 年次生の学修指針等

Phase I における学修の目的と学修内容の概要

フェイズチェアパーソン 川 口 淳

Phase I では、学修の基礎となる基本的知識・方法論の修得、医学を志すものとして人間に対する深い理解を得ることの他、医療人としての心構えを知り、自らの実践を省察し改善に務める自己主導型学習の習慣を身につけることを目的とします。

より具体的には以下の内容になります。

- ・医学を学修するための基礎的な知識と方法論を修得する。
- ・医師の職責を理解し、倫理的・法的規範に則った行動とは何かを理解する。
- ・国際的な視野で医療の発展を理解し、それに対応できる語学力や教養を身につける。
- ・医療におけるコミュニケーションや協働を円滑に推進するのに必要なスキルを身につける。
- ・地域社会の特性やニーズを理解し、社会における医療や保健、福祉の連携の仕組みを理解する。
- ・医学・医療の対象となる人間の心理や行動、ライフサイクルを理解し、人間社会についても理解を深める。

将来医療人として高い倫理性やプロフェッショナリズムに基づいた行動が求められるため、医師としての職責、患者中心医療、医療安全、医療におけるコミュニケーションスキル、チーム医療における他者との協働、地域医療におけるニーズ、医療の国際化等に対応すべく、学習し身に付けなければならない知識や技能、態度、行動がたくさんあります。

医療入門 I および II を中心に、講義、実習、グループ討論を通して入学後早期から医療や保健の現場に触れ、将来の医療人としての自覚を新たにし、豊かな人間性と社会に対する幅広い関心、倫理観、責任感などを身につけてもらいたいと思います。生命倫理学では総論を学び、その先にあるより深く専門的な臨床倫理学などへ学修が展開していきます。また行動科学原論は、心理社会的視点から健康と疾病に関わる人間行動とその変化について深く学修することを目的とする行動科学の基礎となっており、Phase III 臨床医学での各論的学び、Phase IV 臨床実習での実践的な学びへと発展していきます。

生物学、物理学、化学、医療統計学のような基礎科学系教科では、医学を学ぶ上で必要となる生命科学全般の基本的な知識や考え方を学びます。一般教養的な素養としてではなく、高等学校で学んでいない基礎知識を身につけて基礎医学・臨床医学の効率的かつ効果的な学修に役立てることが目的の一つですが、将来医学的研究に携わる際に必要となる知識や方法論も含まれていますので、十分に学び将来の自分の糧にしてください。

共通基礎科目は、英語、コンピューターとネットワークのしくみを学び、各分野における学修をより効率的なものにするだけでなく、将来医療に関する情報収集や発信の際にも活用できます。また、基本教養科目は、医学に限らず自然科学系、人文系、社会科学系などの多くの科目の中から、みなさんが幅広く自分の興味に従って自由に選択する科目であり、人間としての広がりや深みを増すのにつながるのではないかと思います。

Phase I のカリキュラムは、その後のPhase II～Vにおける学修の基礎となるだけでなく、医療人として身につ

けるべきものがたくさんありますので、しっかり学修して医療人としての礎としてください。

以下の1)～4)は、Phase Iにおける評価方法や履修に際しての注意等に関する共通事項です。重要ですので十分留意しておいてください。これ以外にも教科ごとに注意すべき事項がありますので、詳細については各教科の要項もよく読み、不明な点は各教科主任に確認してください。

- 1) 実習はすべて出席することが原則であり、病気や災害、忌引き等やむを得ない事由がある場合は速やかに欠席届を提出すること。その際、事由を証明する書類等も併せて提出し、実習の取り扱いについて担当の教科主任と相談すること。
- 2) 講義、実習に出席していても、倫理面を含めてその履修態度に問題があれば出席と認めない場合がある。
- 3) 出席や試験、提出物その他に関する不正行為は、「佐賀大学学生の懲戒等実施細則」および「佐賀大学医学部の試験の実施に関する内規」に則って対処する。
- 4) 成績判定は「佐賀大学成績判定等に関する規程」2条に準じて行なう。

＜令和7年度 日程表＞

佐賀大学医学部 e-learning システム (学内専用)

『医学部e-ラーニング 2025年度』

＜医学科＞ 医学科（1-4年次）講義日程表 をご確認ください。

シラバスの見かた

シラバス [syllabus] は、個々の授業科目の目的、内容、目標、予定、成績評価の方法など授業の概要を書き示したもので、この学習要項では「授業科目の学習指針等」として掲載してあります。

各授業科目は、医学部の教育目的・目標に沿って年次ごとに開講、配置されていますが、その教育課程における個々の授業科目の位置付け（開講目的）や学習内容・到達目標、成績評価基準・開示方法等をシラバスで明示することにより、教育課程の内容を保証するとともに、学生が、いつ、何を、何のために、どのようにして学び、どこまで到達すべきかを知る学習指針として、重要な役割を果たすものです。

シラバスに記載されている項目の説明

【教科主任】 各授業科目の担当責任者で、教科主任の下に講義・実習等の編成、担当者の配置ならびに試験の実施と成績判定が行われます。

【科目の概要】 各学科の教育課程における当該授業科目の位置付け（開講目的）を示すとともに、この授業により何ができるようになるか（すなわち、この授業の学修がなぜ重要なのか）の総括的な目標が、卒業時学修成果との関連も踏まえて掲げられています。

【講義・実習項目】 授業科目を構成する講義・実習等の項目と、それぞれを担当する教員名が示されています。

【学修目標】 当該授業科目で修得すべき能力とそのレベルが、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」の学修目標を踏まえて具体的な表現で示されています。

【評価の方法と基準】 当該授業科目の成績評価の方法、成績判定の基準と、評価結果の開示方法が示されています。

【履修上の注意】 各授業科目を履修する上での心構え、注意等が示されています。

【テキスト等】 当該授業に必要な参考書を、次の区分に分けて紹介してあります。

- 1) テキスト：教科書として用いるもので、必ず手に入れておく必要があるもの。
- 2) 指定図書：重要な参考書として利用頻度が高く、手に入れておくことが望ましいもの。これについては、原則的に附属図書館医学分館に配架されています。
- 3) 参考書：上記以外の参考書として挙げられています。

【日程表】 当該授業科目の講義・実習等および試験の日程、担当者を掲載しています。キーワードや講義室が書かれている場合もあります。

注：医学部のシラバスは、「医学部ホームページ ⇒ 学部内関連情報（学部学生）」にも掲載してあるので、利用してください。

また、「教養教育科目」のシラバスについては、「佐賀大学ホームページのオンラインシラバス」に掲載されています。

5 授業科目の学修指針等

医 療 入 門 I

学士力番号 2-(1), 2-(3)

教科主任 坂 本 麻衣子

1. 科目の概要

令和4年に改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラムでは、新型コロナウイルス感染症の流行や人工知能などの情報・科学技術の活用等による医療技術の高度化を受け、「変化し続ける未来の社会や地域を見据え、多様な場や人を繋ぎ、活躍できる医療人の育成」を目指すことが基本理念として掲げられている。医学的知識・技術の修得はもちろん、総合的に患者・生活者を見る姿勢、情報・科学技術を活かす能力、そして医療人としての陶冶・コミュニケーション能力・プロフェッショナリズムなどの修得が不可欠である。

医療入門Ⅰ、Ⅱともに、モデル・コア・カリキュラムの改訂を受け、その理念・ニーズに基づいて企画された教育カリキュラムのひとつである。入学後早い時期に、地域の医療・介護などに触れることと、医師に求められる資質・能力とそれを修得するための過程を理解すること、そして小グループ討論・発表を通じて自ら疑問点・問題点を見つけ、考え、解決しようとする、医療人としては欠かせない自己主導型学習能力の修得を目標としている。

またこのコースを通して、医療人として、年齢、心理的・社会的背景の異なる様々な患者に対応できる高度なコミュニケーション力を修得し、患者中心の視点で医療を実践しようと努める豊かな人間性と倫理観、プロフェッショナルリズムの精神を身につける。そして、医療に関わるチームの一員として、他者と協働し良好な人間関係を構築することが大切である事を理解する。また、少子高齢化を特徴とする現代日本社会における医療の実態を理解し、医療の技術的進歩と社会の急速な変貌が人々の心にもたらしている多くの問題に関心を持ち続ける態度を身につける。

2. 講義・実習項目及び学修目標

No.	講義・実習項目	所属	担当者	学修目標	形式
1	オリエンテーション	医学教育	坂本麻衣子	佐賀大学医学部医学科卒業時のアウトカムについて理解する。	講義
2	エコアクション	環境医学	市場 正良	地域社会への責任として行なっているエコアクションについて説明できる。	講義
3	医学修得の設計図	医学教育	小田 康友	6年間の学びのゴールとプロセスをデザインする。	講義
4	看護演習	医学教育	山崎加奈枝 古場 陽子	基本的な感染対策について理解し実施できる。	演習
5	レジェンド講義	江口病院	江口有一郎	本学卒業生の国内外での活躍に触れ、自身の夢や目標を高く掲げる。	講義
6	Early Exposure オリエンテーション	医学教育	坂本麻衣子	各実習の意義、注意点などについて自主的に考え理解する。	講義
7	病棟看護体験実習	医学教育	坂本麻衣子	看護職に対して理解を深め、医療現場における看護業務・チーム医療の重要性を認識する。	実習
8	ファーストエイド	医学教育	坂本麻衣子	外傷処置について学び、その救急処置ができるようになる。	実習
9	車椅子体験実習	医学教育	山崎加奈枝 古場 陽子	車椅子の介助方法を学び、実際に乗り方を体験する。	実習
10	リハビリ科実習	医学教育	坂本麻衣子	多種多様の障害があることを理解する。	実習

No.	講義・実習項目	所属	担当者	学修目標	形式
11	保育園実習	医学教育	坂本麻衣子	幼児との関わりの中から、人間の関わり方やコミュニケーション方法について学ぶ。	実習
12	重症心身疾患病棟実習	医学教育	坂本麻衣子	重症心身障がい児(者)対象の医療・介助を見学し、生活支援のあり方・他職種の役割を知りチーム医療における医師の役割を理解する。	実習
13	シミュレータ実習	医学教育	山崎加奈枝 古場 陽子	スキルスラボやシミュレータのことを理解する。	実習
14	Early Exposure グループ討論	医学教育	坂本麻衣子	各実習での体験について小グループで討論し、発表準備をする。	討論
15	Early Exposure グループ発表	医学教育	坂本麻衣子	各実習を通しての経験・学びについて分かりやすく発表できる。	発表
16	卒前海外留学プログラムの紹介	医学教育	福森 則男	卒業までに参加可能な海外留学プログラムについて理解する。	講義
17	講演「薬害被害」	日本慢性疾患セルフマネジメント協会	間宮 清	市販薬による薬害について学び、被害者・家族の生活や心理について理解を深める。	講義
18	講演「患者の人権・チーム医療」	not Alone Fukuoka	灰来人	患者や家族の立場になって医療を理解する。	講義 演習
19	総括	医学教育	坂本麻衣子	入学時から自身の理想の医師像がどのように変化したのか、振り返り自身の言葉で表現できる。	講義 演習

3. 評価の方法と基準

1) 評価の方法

- ・学修目標1～19については、レポート（講義レポート、実習レポート、総括レポート）、グループ発表、ルーブリック（Rubric）評価法を用いて総合評価を行う。
- ・講義・実習中の態度、少グループ討論での積極性や発表時の立居振舞などを形成的評価の対象とする。

2) 評価基準

- ・講義レポート・実習レポート（30%）、総括レポート（40%）、形成的評価（20%）、ルーブリック評価（10%）
- ・演習や実習等が無断欠席した者には原則として単位を与えない。
- ・レポートについては、実習、講義の意図を充分理解し、経験を通して深い自己分析・省察ができているものを高く評価する。
- ・ルーブリック評価基準は、講義期間中に明示する。

3) 評価結果の開示

- ・レポート課題および出題の意図を開示する。希望者は、成績発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意

- 1) 見学や実習の前には、必ずオリエンテーションを行うので、その指示に従うこと。
- 2) ファーストエイドや車イス体験実習では動きやすく、実習にふさわしい服装を着用すること。
- 3) 病気等により欠席した者はその都度教科主任に申告し了解を得ること。

5. テキスト等

テキストはない。

6. 日 程 表

No.	月 日 (曜日)	時限	項 目	キ ー ワ ー ド	担当	授業形態	方法等	講義室
1	4月11日(金)	3	オリエンテーション エコアクション	卒業時のアウトカム等、 大学が取り組むリサイクル、 省エネ等	坂本他	講義	対面	臨床大講堂
2	4月18日(金)	3	医学修得の設計図 ①	カリキュラム, 評価, 共用 試験, 医師国家試験	小田	講義	対面	臨床大講堂
3	4月25日(金)	3	医学修得の設計図 ②	医療実践, 基礎医学, 臨床 医学	小田	講義	対面	臨床大講堂
4	5月2日(金)	3	医学修得の設計図 ③	人間の現象と構造, 医療 実践像	小田	講義	対面	臨床大講堂
5	5月19日(月)	3・4	看護演習	手洗い実習, 感染予防対 策	坂本他	実習	対面	3階実習室
6	5月20日(火)	5	レジェンド講義	医師の活躍の場	(江口*)	講義	対面	臨床大講堂
7	5月30日(金)	3	オリエンテーション	Early Exposure-Part1	坂本他	講義	対面	臨床大講堂
8-10	6月2日(月)	3~5	Early Exposure-Part 1	ファーストエイド, 車椅 子, 病棟看護体験	坂本他	実習	対面	各実習の 集合場所
11-13	6月9日(月)	3~5	Early Exposure-Part 1	ファーストエイド, 車椅 子, 病棟看護体験	坂本他	実習	対面	各実習の 集合場所
14-16	6月16日(月)	3~5	Early Exposure-Part 1	ファーストエイド, 車椅 子, 病棟看護体験	坂本他	実習	対面	各実習の 集合場所
17-19	6月23日(月)	3~5	Early Exposure-Part 1	ファーストエイド, 車椅 子, 病棟看護体験	坂本他	実習	対面	各実習の 集合場所
20	7月4日(金)	3	グループ討論	Early Exposure-Part1, 討 論	坂本	討論	対面	第1,2講義室 PBL室
21-22	7月11日(金)	3・5	発表	Early Exposure-Part1, 発 表	坂本	発表	対面	第1講義室
23-24	9月17日(水)	1・2	特別講演①	「薬害被害」	(間宮*)	講義	対面	看護5101
25	10月3日(金)	3	卒前海外留学プロ グラムの紹介	卒前海外留学、医学英語、 国際医療	福森	講義	対面	第1講義室
26-27	10月16日(木)	3・4	特別講演②	「患者の人権・チーム医 療」	(灰来人*)	講義	対面	第1講義室
28-29	12月4日(木)	3・4	オリエンテーション	Early Exposure-Part2	坂本他	講義	対面	第1講義室
30-33	12月8日(月)	1~4	Early Exposure-Part 2	リハビリ, 重症心身疾患病 棟, シミュレータ, 保育所	坂本他	実習	対面	各実習の 集合場所
34-37	12月12日(金)	1~4	Early Exposure-Part 2	リハビリ, 重症心身疾患病 棟, シミュレータ, 保育所	坂本他	実習	対面	各実習の 集合場所
38-41	12月15日(月)	1~4	Early Exposure-Part 2	リハビリ, 重症心身疾患病 棟, シミュレータ, 保育所	坂本他	実習	対面	各実習の 集合場所
42-45	12月18日(木)	1~4	Early Exposure-Part 2	リハビリ, 重症心身疾患病 棟, シミュレータ, 保育所	坂本他	実習	対面	各実習の 集合場所
46-49	12月19日(金)	1~4	Early Exposure-Part 2	リハビリ, 重症心身疾患病 棟, シミュレータ, 保育所	坂本他	実習	対面	各実習の 集合場所
50-53	12月22日(月)	1~4	Early Exposure-Part 2	リハビリ, 重症心身疾患病 棟, シミュレータ, 保育所	坂本他	実習	対面	各実習の 集合場所
54-55	1月8日(木)	3・4	グループ討論	Early exposure-Part2, 討 論	坂本	討論	対面	第1,2講義室 PBL室

No.	月 日（曜日）	時限	項 目	キ ー ワ ー ド	担当	授業形態	方法等	講義室
56・57	1月15日(木)	3・4	発表	Early exposure-Part2, 発表	坂本	発表	対面	第1講義室
58		5	医療入門総括	総括	坂本	講義	対面	

実習については別途指示する。

* 特別講師

7. リソースパーソン/担当者一覧

医学教育開発部門 坂本 麻衣子

（オフィスアワー等は巻末参照）

生命倫理学

学士力番号 1-(2)

教科主任 坂本 麻衣子

1. 科目の概要

生命倫理学では、医学・医療の実践の基盤となる医療専門職としての倫理的在り方への理解を深め、同時に、ひとりの人間・ひとつの生命体として他者とのかかわっていく際に必要な倫理的思考力を培うことを目的とする。

また、生命倫理学・医療倫理学という学問全般を通じて、生命に関わる倫理的諸問題・ジレンマに「気づき」、それらの問題に対して自分自身で「考え」、周囲と「協働して」対処する問題対応能力を養うことを目指す。

このコースでは、規範倫理学及び生命倫理学、医療倫理学等の応用倫理学についての基礎を概観する。そして、特に臨床倫理や生と死に関わる倫理的問題について現在活発な議論が行われている安楽死、緩和ケア、臓器移植などの話題について理解を深め、医療従事者側だけではなく、患者・家族側の視点に立った議論を行う。さらに小グループごとに分かれ、生命・医療倫理学に関係する諸問題についてグループ内で討論し、発表資料作成・プレゼンテーションを行うことを通じて、より主体的に思考する能力、他者との協調性、そして高いコミュニケーション能力の修得を目指す。

2. 講義・実習項目及び学修目標

No.	講義・実習項目	所属	担当者	学修目標	形式
1	生命倫理学の概念・歴史	医学教育	坂本麻衣子	現代の生命倫理学がどのように発展してきたのか、歴史を振り返り、ジュネーブ宣言など生命倫理に関する規範を説明できる。	講義 討論
2	安楽死	医学教育	坂本麻衣子	安楽死の種類とその定義を理解し、国内外における見解の違いや法的措置について理解をする。	講義 討論
3	難病と緩和ケア	医学教育	坂本麻衣子	難病の定義や緩和ケアの役割、ホスピスの理念について概説できる。	講義 討論
4	人工妊娠中絶の是非	医学教育	坂本麻衣子	人工妊娠中絶の是非、胎児・母親の権利について理解し、母体保護法など関連する法律について概説できる。	講義 討論
5	出生前診断の是非	医学教育	坂本麻衣子	優生学の歴史と倫理的問題点、障害者の権利について説明することができる。優生学の歴史と倫理的問題点、障害者の権利について説明することができる。	講義 討論
6	着床前診断の是非	医学教育	坂本麻衣子	遺伝子の操作やデザイナーベビーの倫理的問題点について理解する。	講義 討論
7	脳死と臓器移植	医学教育	坂本麻衣子	脳死の種類とその定義、国内外における臓器移植に対する見解の違いや法的措置について理解をする。	講義 討論
8	グループワーク	医学教育	坂本麻衣子	生命・医療倫理学の領域で興味のある症例を見つけ、グループで討論し、倫理的問題点・ジレンマを理解する。	討論
9	グループ発表	医学教育	坂本麻衣子	症例の倫理的問題点・ジレンマを分かりやすく発表する。	発表

3. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・学修目標 1～9 については、講義レポート（10%）、グループ発表（20%）、試験（60%）及び形成的評価（10%）による総合評価を行う。なお、グループ発表については、ルーブリック（Rubric）評価法を用いた評価を含める。
- ・出席状況、講義中の態度、少グループ討論での積極性や発表時の立居振舞などを形成的評価の対象とする。

2) 評価基準

- ・授業の出席状況は2/3以上の出席を最終試験受験資格とする。
- ・ルーブリック評価基準は講義期間中に明示する。

3) 評価結果の開示

- ・希望者は、成績発表後 1 ヶ月以内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意

- ・積極的な態度で授業に臨むこと。
- ・身近に存在する多様な価値判断や倫理的問題に興味を持ち、自分自身の考えを持つように心がけること。
- ・日程表に挙げた項目、キーワードについてテキスト等を用いて予習・復習すること。
- ・適宜、映像資料なども使う予定。
- ・日程は授業の進行具合に応じて一部変更する場合がある。

5. テキスト等

1) 参考図書

- 篠原駿一郎・石橋孝明 編（2009）『よく生き、よく死ぬ、ための生命倫理学』 ナカニシヤ出版 ￥2500
- 上田昌文・渡部麻衣子 編（2008）『エンハンスメント論争—身体・精神の増強と先端科学技術—』 社会評論社 ￥2700
- 宮坂道夫（2015）『医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ 第2版』 医学書院 ￥2800

6. 日 程 表

No.	月日(曜)	時限	項 目	キーワード	担当	授業 形態	方法等	講義室
1	4月9日(水)	3	オリエンテーション生命倫理学の概念・歴史	医の倫理綱領,患者の権利宣言	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3114
2	4月15日(火)	1	安楽死の分類	積極的安楽死,消極的安楽死	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3113
3	4月22日(火)	1	安楽死の是非	SOLとQOL,スミスとジョーンズの思考実験,死の自己決定権	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3113
4	5月2日(金)	1	難病と緩和ケア	ホスピスの理念,緩和ケアの役割	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3113
5	5月13日(火)	1	人工妊娠中絶の是非	母体保護法,人間の本質,胎児の権利	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3113
6	5月20日(火)	1	出生前診断の是非	優生学,障害者の権利	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3113
7	5月27日(火)	1	着床前診断の是非	遺伝子の選択,デザイナーベビー	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3113
8	6月3日(火)	1	脳死と臓器移植(1)	全脳死,有機的統合性,事実と価値	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3113
9	6月10日(火)	1	脳死と臓器移植(2)	大脳死,パーソン論,統合体としての自己	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3113
10	6月17日(火)	1	グループワーク(1)	生命/医療に関わるジレンマ,倫理的問題(1)	坂本	討論	対面	第1,2 講義室 PBL室
11	6月24日(火)	1	グループワーク(2)	生命/医療に関わるジレンマ,倫理的問題(2)	坂本	討論	対面	第1,2 講義室 PBL室
12	7月1日(火)	1	グループ発表会(1)	倫理的問題・ジレンマに関する発表(1)	坂本	発表	対面	第2 講義室
13	7月8日(火)	1	グループ発表会(2)	倫理的問題・ジレンマに関する発表(2)	坂本	発表	対面	第2 講義室
14	7月15日(火)	1	グループ発表会(3)	倫理的問題・ジレンマに関する発表(3)	坂本	発表	対面	第2 講義室
15	7月22日(火)	1	総括	全講義のまとめ	坂本	講義	対面	第2 講義室
16	7月29日(火)	3	試験		坂本	試験	対面	試験室 看護学科6階

7. リソースパーソン/担当者一覧

医学教育開発部門 坂本 麻衣子

(オフィスアワー等は巻末参照)

行動科学原論

学士力番号 1-(2)

教科主任 坂本 麻衣子

1. 科目の概要

行動科学原論では、人間の行動がどのようにして起こるのか、脳科学および心理学を中心に基礎的な知識と考え方を学ぶことを目的とする。行動変容に影響を及ぼす様々な内的・外的要因について理解し、それらの要因がどのように人間の生活の中で複雑に絡まり合い、互いに影響を与え、一つ一つの感情・行動となって現れるのかを学ぶことが、将来の患者支援において重要となる。さらに、臨床現場で使われている行動変容における理論と技法についても学び、観察力やコミュニケーション力の修得も目指す。

2. 講義・実習項目及び学修目標

No.	講義・実習項目	所属	担当者	学修目標	形式
1	人間の行動	医学教育	坂本麻衣子	行動と知覚、学習、記憶、言語などの認知機能との関係を概説できる。	講義 討論
2	行動の成り立ち	医学教育	坂本麻衣子	行動の種類（本能v.学習）や条件付け（respondent v. operant）の定義を理解し、説明できる。	講義 討論
3	動機付け	医学教育	坂本麻衣子	様々な動機付けの種類（生理的、内発的、社会的）を理解し、例示することができる。	講義 討論
4	ライフサイクルにおけるこころの発達	医学教育	坂本麻衣子	こころの発達の原理を概説できる。またライフサイクルの各段階におけるこころの発達と課題について説明できる。	講義 討論
5	知能と人格 対人関係とコミュニケーション	医学教育	坂本麻衣子	知能の発達と人格の形成について概説できる。また、効果的なコミュニケーション方法について理解し例示できる。	講義 討論
6	行動変容における理論と技法	医学教育	坂本麻衣子	人格や認知機能の評価に使われる神経心理学検査について学ぶ。行動変容に使われる行動療法や認知行動療法などについて説明できる。	講義 討論
7	生活習慣病における患者支援	社会医学	原 めぐみ	生活習慣病の危険因子について学び予防のための保健指導ができるようになる。服薬と生活習慣に関する総合的な患者支援について学び概説できる。	演習 討論
8	リハビリテーションにおける患者支援	臨床研究センター	光武 翼	障害による脳・身体機能の変化から行動変容を理解する。	演習 討論
9	グループワーク	医学教育	坂本麻衣子	行動変容を起こす条件付けや行動療法・認知行動療法などについて日常生活における例を見付け、グループで討論し理解を深める。	討論
10	グループ発表	医学教育	坂本麻衣子	グループ内で議論した結果を、分かりやすく発表する。	発表

3. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・学修目標1～10については、講義レポート（10%）、グループ発表（20%）、試験（60%）及び形成的評価（10%）による総合評価を行う。

- ・出席状況，講義中の態度，少グループ討論での積極性や発表時の立居振舞などを形成的評価の対象とする。

2) 評価基準

- ・授業の出席状況は2/3以上の出席を最終試験受験資格とする。

3) 評価結果の開示

- ・希望者は，成績発表後1ヶ月以内にオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意

- ・積極的な態度で授業に臨むこと。
- ・人間の心身の成長について興味を持ち，日頃から観察し常に疑問を持つように心がけること。
- ・日程表に挙げた項目，キーワードについて予習・復習すること。
- ・適宜，映像資料なども使う予定。
- ・日程は授業の進行具合に応じて一部変更する場合がある。

5. テキスト等

1) 参考図書

日本行動医学会（編集）（2015）『行動医学テキスト』 中外医学社 出版 ￥2200

Barbara Fadem（著）（2020）『BRS Behavioral Science』 Walters Kluwer 出版 ￥6620

6. 日 程 表

No.	月日(曜)	時限	項 目	キーワード	担当	授業形態	方法等	講義室
1	4月10日(木)	2	オリエンテーション人の行動①	神経心理学,認知機能	坂本	講義	対面	臨床大講堂
2	4月17日(木)	2	人の行動②	行動の脳内基礎過程,内的・外的要因	坂本	講義	対面	臨床大講堂
3	4月24日(木)	2	行動の成り立ち①	本能行動,学習行動とその方法	坂本	講義	対面	臨床大講堂
4	5月1日(木)	2	行動の成り立ち②	行動のconditioning (respondentv. operant)	坂本	講義	対面	臨床大講堂
5	5月15日(木)	2	動機付け	生理的,内発的,社会的動機付け適応,防衛行動,欲求と葛藤	坂本	講義	対面	臨床大講堂
6	5月22日(木)	2	ライフサイクルにおけるところの発達	ピアジェ,エリクソンの発達理論等,遺伝的要因と環境的要因	坂本	講義	対面	臨床大講堂
7	5月29日(木)	2	知能と人格 対人関係とコミュニケーション	アイデンティティ,パーソナリティ,知能の発達と変化 対人行動,コミュニケーション方法	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3113
8	6月5日(木)	2	行動変容における理論と技法①	人格・認知機能検査,フィードバック,カウンセリング	坂本	講義	対面	臨床小講堂 3113
9	6月12日(木)	2	行動変容における理論と技法②	行動療法,認知行動療法,MI等	坂本	講義	対面	臨床大講堂
10	6月19日(木)	2	生活習慣病における保健指導	生活習慣病,危険因子,予防医学,保健指導	原	講義	対面	臨床大講堂
11	6月26日(木)	2	生活習慣病における患者支援(自律性支援)	服薬などの患者支援,生活習慣病の管理	原	講義	対面	臨床大講堂
12	7月3日(木)	2	リハビリテーションにおける行動変容	実行期への働きかけ,障がい受容,リハビリテーション	光武	講義	対面	第1講義室
13	7月10日(木)	2	グループワーク	日常生活における行動変容, Conditioning,行動療法,認知行動療法,討論	坂本	討論	対面	第1,2講義室 PBL室
14	7月17日(木)	2	グループ発表	日常生活における行動変容, Conditioning,行動療法,認知行動療法,発表	坂本	発表	対面	第1講義室
15	7月24日(木)	2	総括	全講義のまとめ	坂本	講義	対面	第1講義室
16	7月31日(木)	2	試験		坂本	試験	対面	試験室 看護学科 6階

7. リソースパーソン/担当者一覧

医学教育開発部門 坂本 麻衣子

(オフィスアワー等は巻末参照)

医療統計学

学士力番号 1-(2)

教科主任 川 口 淳

1. 科目の概要

医学研究において得られたデータに対し、客観的に評価し適切に結論することができるようになるために、統計学の基礎知識を理解した上で、研究対象または評価項目に応じた統計学的解析法を選択する事と、表計算及び統計ソフトウェアにより解析を実行し適切な結果の解釈ができる実践的知識・技術を身につける。

2. 講義・実習項目および学修目標

	項 目	学 修 目 標
1)	標本調査とデータ要約	統計学の概念・役割について説明できる。 データの記述と要約（記述統計を含む）ができる。 尺度(間隔、比、順序、名義)について説明できる。
2)	二値データと二項分布	データの分布(欠損値を含む)について説明できる。
3)	連続量データと正規分布	データの分布(欠損値を含む)について説明できる。
4)	割合の推定と検定	基本的な仮説検定の構造を説明できる。二項分布の母割合の信頼区間を計算できる。母割合の検定を実施できる。
5)	平均の推定と検定	基本的な仮説検定の構造を説明できる。正規分布の母平均の信頼区間を計算できる。母平均の検定を実施できる。
6)	二群比較 (t検定, 分割表解析, ノンパラメトリック検定)	2群間の平均値の差を検定できる(群間の対応のあり、なしを含む)。 パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の違いを説明できる。 カイ2乗検定法を実施できる。
7)	相関と回帰 (回帰直線, 分散分析)	2変量の散布図を描き、回帰と相関の違いを説明できる。 相関分析を実施できる。一元配置分散分析を利用できる。
8)	多変量解析(重回帰分析, ロジスティック回帰分析)	線形重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析と交絡調整を概説できる。 多変量解析の意義を理解している。
9)	生存時間解析	死亡などあるイベントまでの時間の解析法を説明できる。 打ち切りデータについて説明できる
10)	医療統計学の実践	医学領域における統計学の重要性・役割・利活用について説明できる。
11)	計算演習	データに対して各種解析方法における計算ができる。
12)	コンピュータ演習	変数の分類に応じた統計学的解析法を選択できる。医学データに対してソフトウェアなどにより統計学的解析を実行できる。統計学的解析の結果を解釈できる。

3. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・学修目標1～12については、試験(60%)、演習・練習問題(40%)による総合的な評価

2) 評価基準

- ・欠席3分の1以上は評価対象としない。
- ・成績の評価は、個別行動目標の習得状況に着目して行う。

3) 評価結果の開示

- ・試験およびレポートの評価点は希望があれば開示する。希望者は担当教員の研究室まで来ること。

4. 履修上の注意

コンピュータ実習室を使用し、適宜、演習を取り入れながら講義を進めて行く。その際、情報処理の知識、特に表計算ソフト(MS Excelなど)の基本的な知識を前提とする。従って、前期の情報基礎の内容を必ず習得しておく必要がある。日程表に挙げた項目、キーワードについてテキストなどを用いて必ず予習・復習する。

5. テキスト等

1) 教科書

電子資料を配布するため特に指定しない。参考書1.を中心に講義を進める。

2) 参考書

1. 景山 三平, 藤井 良宜, など「医療系のための統計入門」実教出版, 2015, 2500円程度
2. JMPによる医療系データ分析, 内田 治, 平野 綾子, 石野 祐三子, 東京図書, 3500円程度
3. 統計学の極意, シュピーゲルハルター, デイヴィッド【著】/宮本 寿代【訳】, 2024, 3000円程度
(その他, 講義中に紹介する)

6. 日 程 表

(注1) 講義は, 講義棟3Fの「コンピュータ実習室(1305)」で行う。

No.	月日(曜)	時限	項 目	担当	キーワード	授業形態	方法等	講義室
1	10月10日(金)	3	標本調査とデータ要約	川口	調査とデータ, 変数の分類, バラツキ, 代表値, グラフ表現	講義	対面	CP室
2		4	コンピュータ演習(1)	〃	統計ソフトによる集計, グラフ, 推定と検定	演習	対面	CP室
3	10月17日(金)	3	二値データと二項分布	〃	母集団, 無作為標本, 確率変数, 確率関数, 二項分布, パラメータ, 期待値, 分散	講義	遠隔	
4		4	連続量データと正規分布	〃	密度関数, 分布関数, 確率の計算	講義	遠隔	
5	10月24日(金)	3	割合の推定と検定	〃	点推定と区間推定, 信頼区間, 信頼度, 仮説検定, p値, 有意水準	講義	遠隔	
6		4	平均の推定と検定	〃	平均の信頼区間, 1標本t検定, 第1種の過誤と検出力	講義	遠隔	
7	10月31日(金)	3	二群比較	〃	2標本t検定, カイ二乗検定, フィッシャーの直接確率検定, ウィルコクソン順位和検定	講義	対面	CP室
8		4	コンピュータ演習(2)	〃	統計ソフトによる二群比較	演習	対面	CP室
9	11月7日(金)	3	回帰分析	〃	相関係数, 回帰直線, ダミー変数, 分散分析, 重回帰分析, ロジスティック回帰分析	講義	対面	CP室
10		4	コンピュータ演習(3)	〃	統計ソフトによる回帰分析	演習	対面	CP室
11	11月14日(金)	3	生存時間解析	〃	生存時間, カプラン・マイヤー曲線, ログランク検定, コックスの比例ハザードモデル	演習	遠隔	
12		4	計算演習	〃	統計解析手法の計算方法	演習	遠隔	
13	11月21日(金)	3	試験	〃		試験	対面	CP室
14	11月28日(金)	3	総括	〃	試験の解説	講義	対面	CP室
15		4	医療統計学の実践	〃	医療統計学に関する話題	講義	対面	CP室
16	1月23日(木)	3	再試験	〃		試験	対面	CP室

7. リソースパーソン／担当者一覧

地域医療科学教育研究センター 数理解析部門（教育IR室） 川口 淳
（オフィスアワー等は巻末参照）

物 理 学

～基礎医学としての物理～

学士力番号 1－(2)

教科主任 富 永 広 貴

1. 科目の概要

フェイズⅡ（基礎医学）の授業に先だって、医学および生命科学の基礎的な知識および理解力を身につけるための学習の一環として物理学を生体への応用を見据えて学習する。授業内容をより確実に理解し学習意欲を高めてもらうことを目的として授業とともに2テーマの実験を行う。本科目で、医学の基礎であるサイエンス（科学）の考え方を身につけ、「ニセ科学」「ニセ医学」に騙されないよう科学リテラシーの向上を目指す。

2. 講義・実習項目および学修目標

No.	講義・実習項目	担当者	学修目標	形式
1	嘘を見抜く眼を持つために	富永 広貴	ニセ医学に騙されない考え方が身につく。今後、医学分野でAIがどのように利用されていくか見通す事ができる。	講義・演習
2	人間サイズの複雑な物理	〃	システム生物学、力学系、カオス理論を説明できる。	〃
3	生体静力学	〃	力、力のモーメント、摩擦等の概念を理解し、人体の重心や生体内摩擦などを計算できる。	〃
4	運動モデルとスポーツ	〃	剛体の並進や回転運動の法則を述べ、スポーツ時の身体運動のような応用問題を計算できる。	〃
5	微分方程式と感染症モデル	〃	物体の運動法則を理解し、具体的な運動方程式を計算できる。更に、SIRモデルなどの感染症モデルが運動方程式と同型の問題であることが理解できる。	〃
6	骨にかかる力	〃	弾性変形と塑性変形、歪と応力、弾性率、弾性エネルギーの基礎を理解し、棒のたわみ、棒のねじれを計算することで、骨にかかる力を計算できる。	〃
7	圧力と循環・呼吸	〃	静水圧、表面張力など静止流体に関する基礎を理解し、血管壁にかかる圧力の計算など生体現象に適用できる。医療における実例として肺サーファクタントについて説明できる。	〃
8	ベルヌーイの定理とニュートンの粘性法則の血流への応用	〃	ベルヌーイの定理、ニュートンの粘性法則など流体の運動に関する法則や定理を理解し、血圧や血圧計、血液の流動抵抗などの計算に適用できる。	〃
9	波動	〃	波動方程式、波の強度などの波動現象に関する基礎を理解し、CTや超音波エコーなど波の診断応用を説明できる。	〃
10	音と聴覚・発声	〃	音の3要素、ヒトの可聴領域、聴覚の物理機構、超音波の原理と応用など音波の基礎を理解し、それを応用した医療機器の仕組みを説明できる。	〃
11	光と視覚	〃	レンズ、眼の構造、視力検査、顕微鏡の仕組み等を説明できる。	〃
12	波の診断利用	〃	単振動、減衰振動、強制振動など振動現象に関する基礎とFourier解析などの応用を理解し、具体的な問題に対して計算できる。	〃

13	電磁気と神経・興奮伝導	富永 広貴	神経系の電氣的性質，活動電位，心電図を説明できる。	講義・演習
14	生体時系列解析	〃	心電図波形，脳派，脈波など生体時系列に対して，Fourier変換，Wavelet変換等の時系列解析法を説明できる。	〃
15	人体の熱の流れ	〃	体温，体温計の仕組み，エネルギー代謝，METs (Metabolic Equivalents)を説明できる。	〃
16	振り子による重力加速度の測定	富永 広貴 一ノ瀬浩幸	ノギスやマイクロメーターなどの基本的測定器の使用法を説明できる。重力加速度の原理を説明できる。	実習
17	電気・電子回路	〃	テスターなどの基本的測定器具の使用法を説明できる。センサーを組み込んだ電子回路とマイコンにより得られた信号のAD変換によるPCへのデータ取得の基本原則を理解し，個別的問題を解析できる。	〃

3. 評価の方法と基準

- ・講義はレポートと試験,実習はレポートを課す。学修目標 1～17については，これらを総合して物理学の評価とする。試験は60点以上で合格とする。実験レポートに不正以外で不備があれば再提出を求める。試験,レポートの片方でも不合格であれば合格としない。
- ・学生からの申請があれば,試験答案の採点結果，配点の開示と個別指導を行う。希望者は試験結果発表後 1 ヶ月程度の期間内に担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意

- ・対面講義はコンピュータ実習室(講義棟3F)で行う。座席を指定するので部屋の入口の座席表を確認して入室すること。対面講義はアクティブラーニングを実施するので,オンライン資料,教科書等は必ず予習して講義に臨むこと。
- ・実験に関しては全てに出席する必要がある。正当な理由なく遅刻・欠席した場合，単位を与えないので注意すること。やむを得ない理由がある場合は事前に相談をすること。実験は2人一組で実施するため,双方迷惑をかけないように,事前配信する資料は必ず視聴しておくこと。

5. テキスト等

1) 教科書

医歯系の物理学 赤野松太郎他著 東京教学社

2) 参考書

めくるめく数理の世界-情報幾何学・人工知能・神経回路網理論 甘利俊一 サイエンス社

システム生物学入門 畠山哲央・姫岡優介著 講談社

面倒なことはChatGPTにやらせよう (KS情報科学専門書) カレーちゃん・からあげ著 講談社

医療系のための物理学入門 (KS医学・薬学専門書) 木下順二著 講談社

人体物理学～動きと循環のメカニズムを探る～ Irving P.Herman著 NTS

医療系の基礎としての物理 廣岡秀明他著 学術図書出版社

感染症流行を読み解く数理 西浦博編著 日本評論社

これからのバイオエンジニアリング 東京大学バイオエンジニアリング教科書編集委員会編 羊土社
 SGCライブラリ141 複雑系科学への招待 坂口英継・本庄春雄共著 サイエンス社
 絵と図でよくわかる人工知能 ニュートン編集部 NEWTON PRESS
 脳波処理とブレイン・コンピュータ・インタフェース 東広志他著 コロナ社
 細胞の物理生物学 Rob Phillips, Jane Kondev, Julie Theriot 著 共立出版
 生物学と医学のための物理学 原著第4版 Paul Davidovits 著 共立出版
 摩擦の物理 松川宏著 岩波書店
 流れー自然が創り出す美しいパターン フィリップ・ボール 早川書房
 生物分子モーター ゆらぎと生体機能 柳田敏雄著 岩波書店
 ニセ科学を見抜くセンス 左巻健男著 新日本出版社
 「ニセ医学」に騙されないために NATROM 著 メタモル出版
 医療否定本の嘘 ミリオンセラー近藤本に騙されないがん治療の真実 勝俣範之著 扶桑社
 代替医療の光と闇 ポール・オフィット著 地人書館
 代替医療のトリック サイモン・シン著 新潮社
 いちから聞きたい放射線のほんとう 菊池誠, 小峰公子著 筑摩書房
 やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎清明 朝日出版社
 捏造の科学者 STAP細胞事件 須田桃子著 文藝春秋

6. 日 程 表

No.	月日(曜日)	時限	項 目	キーワード	対象 学生	方法等	講義室
1	4月9日(水)	4	嘘を見抜く眼を持つために	ニセ科学, ニセ医学, AI, LLM (大規模言語モデル)	講義	対面	CP室
2	4月16日(水)	4	人間サイズの複雑な物理	システム生物学, 力学系, カオス理論	講義	対面	CP室
3	4月23日(水)	4	生体静力学	人体のモデル化, 人体の重心, 生体内摩擦	講義	対面	CP室
4	4月30日(水)	4	運動モデルとスポーツ	角運動量, 回転運動, 慣性モーメント, Walking, Running, Jump, Swimming	講義	対面	CP室
5	5月7日(水)	4	微分方程式と感染症モデル	運動方程式, SIRモデル	講義	対面	CP室
6	5月14日(水)	4	骨にかかる力	骨のまがり, ねじれ, 破断	講義	対面	CP室
7	5月21日(水)	4	圧力と循環・呼吸	血管壁にかかる圧力, 肺サーファクタント, 圧力変化による生理現象(減圧症, 高山病, 気象病)	講義	対面	CP室
8	5月28日(水)	4	ベルヌーイの定理とニュートンの粘性法則の血流への応用	点滴, 血圧測定, 血液の流動抵抗, 胸腔ドレナージ	講義	対面	CP室
9	6月4日(水)	4	波動	波動方程式, 偏微分方程式, 強度	講義	対面	CP室
10	6月11日(水)	4	音と聴覚・発声	耳の構造, 難聴と聴力検査, 構音	講義	対面	CP室
11	6月18日(水)	4	光と視覚	レンズ, 眼の構造, 視力検査, 顕微鏡	講義	対面	CP室
12	6月25日(水)	4	波の診断利用	計算機断層撮影法(CT), 超音波, レーザー, パルスオキシメーター	講義	対面	CP室
13	7月2日(水)	4	電磁気と神経・興奮伝導	神経系の電気的性質, 活動電位, 心電図	講義	対面	CP室

No.	月日（曜日）	時限	項 目	キーワード	対象 学生	方法等	講義室
14	7月9日(水)	4	生体時系列解析	心電図波形, 脳派, 脈波, Fourier解析	講義	対面	CP室
15	7月16日(水)	4	人体の熱の流れ	体温, 体温計, エネルギー代謝, METs(MetabolicEquivalents)	講義	対面	CP室
16・17	7月28日(月)	3・4	試験		試験	対面	試験室 看護学科6階
	9月24日(水)	1・2	再試験		試験	対面	試験室 看護学科6階
基礎科学	9月29日(月)	3～5	A班：振り子による重力加速度の測定	ノギス, マイクロメータ, 有効数字, 誤差	実習	対面	3階 実習室
基礎科学	9月30日(火)	3～5	B班：振り子による重力加速度の測定	〃	実習	対面	3階 実習室
基礎科学	10月6日(月)	3～5	A班：電気・電子回路	心電, 筋電, 指尖容積脈波, マイコン	実習	対面	3階 実習室
基礎科学	10月7日(火)	3～5	B班：電気・電子回路	〃	実習	対面	3階 実習室

A班,B班とは、 学籍番号の前半、 後半で分けられた班である。どこで区切るかは実習前に伝える。

7. リソースパーソン／担当者一覧

所 属	氏 名	内線番号	連 絡 先
地域医療科学教育研究センター	富永 広貴		
〃	一ノ瀬浩幸		

化 学

学士力番号 1-(2)

教科主任 池 田 義 孝

1. 科目の概要

医学・生物学で取り扱われる生命現象は、様々な生体分子の働きや相互作用により引き起こされ、そういった生体分子の振る舞いに分子自体の化学構造や化学的性質が強く関わっている。生体としての人間の正常な機能やその異常、病気の治療などを分子レベルで理解するのに必要・有用な化学的原理や考え方を学び、基礎医学のみならず医学一般の学習に役立ててもらうことを目標にしている。いわゆる一般化学から無機化学、物理化学、有機化学、放射化学、生物（有機）化学などの分野から医学・生物学に関連した項目を選び解説する。

2. 講義・実習項目および学修目標

No.	講義・実習項目	所属	担当者	学修目標	形式
1	原子、電子の軌道	分子生命科学	池田 義孝	原子の構造と電子の軌道について説明できる。	講義
2	化学結合、分子の構造、分子間相互作用	〃	〃	化学結合と分子の構造について説明できる。 分子間の相互作用について説明できる。	講義
3	化学反応、速度論、化学平衡	〃	〃	化学反応の速度論と平衡について説明できる。	講義
4	有機化学の基礎	〃	〃	有機化合物の命名法と異性体について説明できる。 官能基の構造と性質について説明できる。 化学反応の反応機構について説明できる。	講義
5	放射化学の基礎	〃	〃	原子核の安定性や放射性崩壊、医療における利用について説明できる。	講義
6	代謝反応の化学	〃	〃	生体内の化学反応のしくみについて説明できる。	講義
7	分光光度計を用いた化学的解析	〃	池田 義孝 井原 秀之 岡田 貴裕 伊東 利津	機器による物質の定性的と定量的分析について説明できる。 酸解離のpH依存性の理論的取扱を説明できる。	実習
8	エステル加水分解の速度解析	〃	〃	二次反応の速度論的解析を説明できる。	実習

3. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・学修目標1～8については、授業終了後の筆記試験により評価する。ただし、実習レポートの提出が単位認定に必須である。
- ・学修目標については、上記により評価する。

2) 評価基準

- ・Phase I 概要を参照のこと。

3) 評価結果の開示

- ・試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。どのようなルールで開示するかは可否結果発表時に連絡する。

4. 履修上の注意

受験勉強における化学のイメージや先入観をもたずに臨むこと。熱力学を含めた化学的知識は、基礎、臨床に限らず多くの分野で有用なので、とにかく出席し講義を聞く、あるいは配信された教材は必ず視聴すること。細胞の機能や構造、エネルギー代謝のしくみや、薬が効くとか効かないとか、毒がなぜ身体に悪いか、放射線が生体や物質にどう作用するかなどを理解する上で必要な知識である。

実習に関しては全てに出席する必要がある、正当な理由なく遅刻・欠席した場合、単位を与えないことがあるので注意すること。やむを得ない理由がある場合は事前に相談のこと。

5. テキスト等

1) テキスト

2) 参考書

とくに指定しない。参考になる書物は講義中に紹介する。

6. 日 程 表

No.	月日(曜日)	時限	項 目	担当	キーワード	授業形態	方法等	講義室
1-2	4月7日(月)	3,4	原子の構造と原子軌道Ⅰ	池田	原子質量, 原子量, 質量数, 質量欠損, 電子殻, ボーアの原子モデル, 水素スペクトル系列, 電子雲, オービタル	講義	対面	第1講義室
3-4	4月8日(火)	3,4	原子の構造と原子軌道Ⅱ	〃	s軌道, p軌道, 電子配置, 構成原理	講義	対面	〃
5-6	4月10日(木)	3,4	化学結合と分子の構造Ⅰ	〃	共有結合, ルイス構造, オクテット則, 炭素の混成軌道, σ 結合, π 結合	講義	対面	〃
7-8	4月14日(月)	3,4	化学結合と分子の構造Ⅱ	〃	窒素と酸素の混成軌道, 配位結合, 非共有電子対, 電気陰性度, 結合の極性, 双極子モーメント, 分子軌道	講義	対面	〃
9-10	4月15日(火)	3,4	分子間力・分子間相互作用とその他の基礎知識	〃	水素結合, ファンデルワールス力, ロンドン分散力, 疎水結合, ルイス式とケクレ式, 電子移動の表記, π 電子の非局在化, 共鳴, 共役二重結合, 酸と塩基, 酸解離定数, 誘起効果, メソメリー効果	講義	対面	〃
11-12	4月17日(木)	3,4	化学反応・速度論・化学平衡Ⅰ	〃	有機電子論, 求核試薬, 求電子試薬, 求核置換反応, SN1反応, SN2反応	講義	対面	〃
13-14	4月21日(月)	3,4	化学反応・速度論・化学平衡Ⅱ	〃	反応速度, 反応次数, 遷移状態, ボルツマン分布, 触媒, ギブス自由エネルギー, 化学ポテンシャル	講義	対面	〃
15-16	4月22日(火)	3,4	炭化水素と官能基: 有機化合物の命名法	〃	アルカン, アルケン, アルキン, 芳香族, アルコール, カルボニル化合物, アミン	講義	対面	〃
17-18	4月24日(木)	3,4	異性体と立体化学	〃	光学活性, キラリティ, Fischer投影式, エナンチオマー, ジアステレオマー, DL表示法, RS表示法, 幾何異性体	講義	対面	〃
19-20	4月28日(月)	3,4	放射化学の基礎	〃	核子, 核結合エネルギー, 放射性同位体, 原子核崩壊, 放射線, ベクレル, シーベルト, 核スピン, 核磁気共鳴	講義	対面	〃

No.	月日(曜日)	時限	項 目	担当	キーワード	授業形態	方法等	講義室
21-22	5月1日(木)	3,4	代謝反応の化学	池田	補酵素, アルドール縮合, クライゼン縮合, マイケル付加, 互変異性, ピリドキサルリン酸	講義	対面	第1講義室
23-24	5月8日(木)	3,4	1班: 分光光度計を用いた化学的解析	池田, 井原岡田, 伊東		実習	対面	3階実習室
(23-24)	5月12日(月)	3,4	2班: "	"		実習	対面	"
(23-24)	5月13日(火)	3,4	3班: "	"		実習	対面	"
(23-24)	5月16日(金)	3,4	4班: "	"		実習	対面	"
25-26	5月26日(月)	3,4	本試験	池田, 井原岡田		試験	対面	臨床大講堂
27-28	5月29日(木)	3,4	1班: エステル加水分解の速度解析	池田, 井原岡田, 伊東		実習	対面	3階実習室
(27-28)	6月3日(火)	3,4	2班: "	"		実習	対面	"
(27-28)	6月5日(木)	3,4	3班: "	"		実習	対面	"
(27-28)	6月10日(火)	3,4	4班: "	"		実習	対面	"
	9月16日(火)	1,2	再試験	池田		試験	対面	試験室 看護学科6階

(注1) 表中の1～4班とは、学籍番号で分けられた班である。どこで区切るかは実習前に伝える。

(注2) 特に指示がなければ、実習は講義棟3F第3実習室で行う。

7. リソースパーソン/担当者一覧

「2. 講義・実習項目および学修目標」参照

(オフィスアワー等は巻末参照)

生 物 学

学士力番号 1-(2)

教科主任 池 田 義 孝

1. 科目の概要

医学的基礎知識を学ぶための考え方やそれに関連する生命科学分野全般の知識および理解力を身につける。専門用語の意味を知ることから始まり、様々な生命現象に関する分子レベルの基礎を学んで、スムーズに基礎医学・臨床医学の学習へと移行してもらいたい。

2. 講義・実習項目および学修目標

No.	講義・実習項目	所属	担当者	学修目標	形式
1	生物の分類と細胞の構造	分子生命科学	岡田 貴裕	原核生物と真核生物の特徴を説明できる。 細胞の全体像を図示できる。 生命における水の役割を説明できる。 細胞小器官の構造と機能を説明できる。 細胞骨格の種類を説明できる。	講義
2	生体有機分子の構造と機能	〃	岡田 貴裕	生体有機分子を分類できる。 脂質と生体膜の性質・役割を説明できる。 単純糖質と複合糖質の構造と機能を説明できる。 アミノ酸の構造と分類、タンパク質の立体構造の成り立ちを説明できる。	講義
3	酵素	〃	池田 義孝	酵素の機能と調節を説明できる。	講義
4	エネルギー代謝と物質代謝	〃	池田 義孝	生体内の反応のあらましを述べるができる。 解糖の経路とクエン酸回路を説明できる。 電子伝達系と酸化的リン酸化を説明できる。	講義
5	核酸と遺伝子、発生分化	〃	井原 秀之	細胞の増殖、分化を示すことができる。 遺伝現象と遺伝子の機能の大筋を説明できる。	講義
6	細胞の情報伝達と機能制御、組織と器官	〃	岡田 貴裕	生体分子を介した細胞間情報伝達の様式・生物学的意義を説明できる。 分子生物学の観点から細胞の分化状態・機能の制御メカニズムを説明できる。 ヒトの階層構造と生理機能の統御メカニズムを説明できる。	講義
7	顕微鏡の取扱い	〃	池田 義孝 井原 秀之 岡田 貴裕 伊東 利津	顕微鏡の使い方を説明でき、正しく扱うことができる。	実習
8	電気泳動による分析	〃	池田 義孝 井原 秀之 岡田 貴裕 伊東 利津	電気泳動の原理とそれによる分析法を説明できる。	実習
9	実験動物の取扱い	総合分析実験センター	北嶋 修司	実験動物取扱に関する倫理面での諸注意について説明できる。 マウスの取扱方について説明できる。	実習

3. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・学修目標1～9については、授業終了後の筆記試験により評価する。ただし、実習レポートの提出が単位認定に必須である。
- ・学修目標については、上記により評価する。

2) 評価基準

- ・Phase I 概要を参照のこと。

3) 評価結果の開示

- ・試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。どのようなルールで開示するかは可否結果発表時に連絡する。

4. 履修上の注意

とにかく遠隔であれ対面であれ講義を聞くことが大切である。最初は分からない言葉の連続だと思うが、少なくとも「どういう領域・分野の話に出てくる言葉なのか」程度は分からないと自己学習が相当困難になるので、分からないなりに講義は聞くことである。よく見られるのは「何が分からないのか」が分からないという状況である。こうなると何のどこを勉強すればよいか見当がつかないし、教員友人など他人に何を聞けばよいかも分からないという救いようのない状態に陥るので気をつけること。実習に関しては全てに出席する必要がある、正当な理由なく遅刻・欠席した場合、単位を与えないことがあるので注意すること。やむを得ない理由がある場合は事前に相談のこと。

5. テキスト等

1) テキスト

2) 参考書

とくに指定しない。参考になる書物は講義中に紹介する。

6. 日 程 表

No.	月日(曜日)	時限	項 目	担当	キーワード	授業形態	方法等	講義室
1	5月15日(木)	3	生物の定義, エネルギーと有機分子	岡田	生物分類学, リンネ, 3ドメイン説	講義	対面	第1講義室
2		4	生命における水の役割, 細胞の構造		細胞膜, 細胞小器官, 細胞骨格			
3	5月16日(金)	1	脂質と生体膜	"	脂肪酸, ミセル, リン脂質, コレステロール, 疎水効果, 脂質二重膜, 生体膜の流動性, 水平拡散, 選択的透過性, 単純拡散, 能動輸送, 輸送体	"	"	"
4		2	糖質, タンパク質		糖誘導体, 糖鎖, 糖脂質, 糖タンパク質, グリコサミノグリカン, 単純多糖, アミノ酸, ペプチド, タンパク質, 高次構造, モチーフ, ドメイン, サブユニット, 変性, 失活			
5	5月20日(火)	3	酵素の機能と役割	池田	触媒、酵素反応、酵素の分類、Michaelisi-Menten式、Lineweaver-Burkプロット、酵素阻害	"	"	"

No.	月日(曜日)	時限	項 目	担当	キーワード	授業 形態	方法等	講義室
6	5月20日(火)	4	酵素活性と調節	池田	補酵素、補欠因子族、アポ酵素、 ホロ酵素、酵素活性の調節、ア ロステリック効果	講義	対面	第1 講義室
7	5月22日(木)	3	エネルギー代謝の基 礎：電子伝達系と酸 化的リン酸化	〃	三大栄養素、ビタミン、補酵素、 異化と同化、酸化還元、高エネ ルギーリン酸結合、シトクロ ム類、ATP合成、呼吸鎖、酸素 消費、共役と脱共役	〃	〃	〃
8		4	糖代謝：解糖系とク エン酸回路		NADH, グリコーゲン, アセチ ルCoA, オキサロ酢酸, ピルビ ン酸, 乳酸, 糖新生			
9	5月27日(火)	3	その他の代謝：脂肪 酸とアミノ酸	〃	β 酸化, 脂肪酸合成, アミノ基 転移反応, 糖原性およびケト 原性アミノ酸, 尿素サイクル	〃	〃	〃
10		4	核酸の構造と遺伝子		核酸の構造と機能, 二本鎖DN A, 塩基対, 逆平行, 相補鎖, 二 重らせん, 遺伝子, エクソン, イントロン, 染色体, ゲノム	〃	〃	〃
11	6月2日(月)	1	遺伝子の複製	〃	半保存的複製, 複製フォーク, D NAポリメラーゼ, リーディング 鎖, ラギング鎖, 岡崎フラグメ ント, 末端複製問題, テロメア	〃	〃	〃
12		2	遺伝子の発現：転写 と翻訳		セントラルドグマ, RNAの構造 と機能, mRNAの合成, RNAポリ メラーゼ, プロモーター, 5'末端 キャップ構造, RNAスプライシ ング, ポリアデニル化, ポリペプ チド伸長反応, tRNA, コドン, ア ンチコドン, rRNA, 核小体, リボ ソーム, 小胞体, ポリリボソーム			
13	6月9日(月)	1	細胞の分裂と増殖	〃	核, ヌクレオソーム, クロマチ ン, 動原体, 微小管, 体細胞分裂, 有糸分裂, 細胞周期, 増殖因子	〃	〃	〃
14		2	生殖と減数分裂		有性生殖, 配偶子, 接合子, 減 数分裂, 相同染色体, 二価染色 体, 卵子形成, 精子形成, 受精			
15	6月12日(木)	3	遺伝と遺伝病	〃	顕性・潜性遺伝, 遺伝子の連 鎖, 染色体の乗り換え(交差), 減数分裂と遺伝的多様性, 遺 伝性疾患, 伴性遺伝, 染色体の 異常, ライオニゼーション	〃	〃	〃
16		4	発生と分化		初期発生, 原腸形成, 三胚葉, 器 官形成, ヒトの初期発生, 調節卵・ モザイク卵, 形成体, 誘導の連鎖			
17	6月16日(月)	1	細胞の情報伝達機構	岡田	シグナル分子, 受容体, シグナ ル変換経路, 細胞応答	〃	〃	〃
18		2	幹細胞と分化・再生		細胞の分化, マスター遺伝子, 成体幹細胞, ES細胞, iPS細胞			
19	6月17日(火)	3	癌とアポトーシス	〃	癌抑制遺伝子, 癌原遺伝子, 細 胞周期, アポトーシス	〃	〃	〃
20		4	動物の組織・器官Ⅰ		上皮組織, 結合組織, 神経組織, 筋組織			
21	6月19日(木)	3	動物の組織・器官Ⅱ	〃	消化器系, 消化酵素, 栄養素の 吸収・運搬	〃	〃	〃
22		4	生体の恒常性		自律神経, 循環器系, 呼吸器系, ホルモン			

No.	月日(曜日)	時限	項 目	担当	キーワード	授業形態	方法等	講義室
23,24	6月30日(月)	3,4	本試験	池田,井原 岡田		試験	対面	臨床 大講堂
25,26	7月3日(木)	3,4	1 班：電気泳動による分析法	池田,井原 岡田,伊東		実習	対面	3 階 実習室
(25,26)	7月7日(月)	3,4	2 班：〃	〃		〃	〃	〃
(25,26)	7月8日(火)	3,4	3 班：〃	〃		〃	〃	〃
(25,26)	7月10日(木)	3,4	(予備)：〃	〃		〃	〃	〃
27,28	9月16日(火)	3,4	1 班：顕微鏡の取り扱い	池田,井原 岡田,伊東		実習	対面	3 階 実習室
(27,28)	9月17日(水)	3,4	2 班：〃	〃		〃	〃	〃
(27,28)	9月18日(木)	3,4	3 班：〃	〃		〃	〃	〃
(27,28)	9月19日(金)	3,4	(予備)：〃	〃		〃	〃	〃
	9月22日(月)	3,4	再試験	池田,井原 岡田		試験	対面	試験室 看護学科棟6階
基礎 科学	9月29日(月)	3.4.5	B班：実験動物の取り扱い	北嶋		実習	対面	3 階 実習室
			(A班：物理実習)	(富永, 一ノ瀬)				
基礎 科学	9月30日(火)	3.4.5	A班：実験動物の取り扱い	北嶋		〃	〃	〃
			(B班：物理実習)	(富永, 一ノ瀬)				
基礎 科学	10月6日(月)	3.4.5	B班：マウスを用いた実習	北嶋		〃	〃	〃
			(A班：物理実習)	(富永, 一ノ瀬)				
基礎 科学	10月7日(火)	3.4.5	A班：マウスを用いた実習	北嶋		〃	〃	〃
			(B班：物理実習)	(富永, 一ノ瀬)				

(注1) 表中の1～3班, またはA班・B班とは, 学籍番号で分けられた班である。どこで区切るかは実習前に伝える。

(注2) 班の区切りは実習によって異なることがあるので注意すること。

(注3) 特に指示がなければ, 実習は講義棟3階第3実習室で行う。

7. リソースパーソン/担当者一覧

「2. 講義・実習項目および学修目標」参照

(オフィスアワー等は巻末参照)

PhaseⅡのうち，１年次に履修する授業科目の学習指針等

分子生物学Ⅰ

分子生物学Ⅱ

人体発生学

肉眼解剖学概説

分子生物学Ⅰ（分子生物学の基礎）

学士力番号 1－(3)

教科主任 副 島 英 伸

1. 科目の概要

分子生物学Ⅰは、PhaseⅠの生物学、化学を基盤とし、分子生物学Ⅱへつながる基礎医学の基本科目である。細胞や個体は遺伝情報に基づいてその生命活動を営んでいる。この細胞と個体の正常な機能を分子（とくに核酸やタンパク質）のレベルで理解すると共に、基礎医学的研究の方法論としての組換えDNA技術を理解する。これらを習得するためには、自らを省察し、自己主導型学習の習慣を身につけることが必要である。

2. 講義項目および学修目標

No.	講義・実習項目	所属	担当者	学修目標	形式
1	DNAと染色体	分子生命科学	一丸武作志	・染色体の構造を理解し、ゲノムと染色体及び遺伝子の構造と関係性について理解している。	講義
2	DNAの複製と修復	分子生命科学	一丸武作志	・DNAの複製と修復について理解している。	講義
3	DNAからタンパク質へ	分子生命科学	副島 英伸	・DNAからRNAへの転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現及び調節(セントラルドグマ)について理解している。	講義
4	遺伝子発現の調節	分子生命科学	副島 英伸	・エピゲノム修飾について理解している。	講義
5	遺伝子とゲノムの進化	分子生命科学	原 聡史	・進化の基本的な考え方について理解している。 ・生物種とその系統関係について理解している。 ・アミノ酸配列や塩基配列の比較による分子系統樹について概要を理解している。	講義
6	遺伝子の構造と機能の解析	分子生命科学	原 聡史	・染色体分析・DNA配列決定を含むゲノム解析技術について概要を理解している。 ・ゲノム編集技術とその応用について概要を理解している。	講義

3. 評価の方法と基準

1) 評価方法

・受験資格については以下のすべてを満たすことを条件とする。

① MCQ講義を除く7回の講義のうち5回以上について学習課題を期限までに提出すること（キーワードを二つ挙げ、ひとつにつき100～150字にまとめてe-learningの回答フォームに入力すること）

※ 課題提出期限は、講義日の翌日23:59とする。

※ 提出期限を過ぎても課題提出は受け付けない。

② すべてのMCQ講義について、事前課題を提出した上で出席すること（MCQ講義の詳細はeラーニングHPに掲載する）

※ 期限までに事前課題を提出しなかった場合は本試験において減点する。

※ 提出期限を過ぎても課題提出は受け付けない。

※ 15分以上の遅刻は欠席とする。

※ やむを得ず欠席する場合は、欠席届を提出すること（欠席届の詳細は学生課に問い合わせること）。

・受験資格を満たし、且つ筆記試験で合格判定基準に達した場合に合格とする。

・学修目標については、上記により評価する。

2) 評価基準

・筆記試験の合格判定基準は、60%の正答率を基本線とし、試験の難易度によって調整する。

3) 評価結果の開示

・試験答案の採点結果、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意

・不誠実な履修態度の学生、学力の向上を怠る姿勢に改善がみられない学生、不正行為を行った学生は、プロフェッショナルリズムが理解できていないと判断し、試験の成績にかかわらず不合格とする。

・学修目標、日程表に挙げた項目やキーワードについて予習をすること。

5. テキスト等

1) テキスト

Essential細胞生物学 第5版 Bruce Alberts他著 中村桂子・松原謙一・榎佳之・水島昇監訳 南江堂
2021 ¥8,000

2) 参考書

細胞の分子生物学 第6版 Bruce Alberts他著 中村桂子・松原謙一監訳 ニュートンプレス 2017
¥22,300

6. 日 程 表

No.	月日(曜)	時限	項 目	担当	キーワード	授業 形態	方法等	講義室
1 — 2	6月23日(月)	1,2	DNAと染色体	一丸	遺伝子,ヌクレオチド鎖,二重らせん,塩基対,クロマチン,セントロメア,テロメア,ヌクレオソーム,ヒストンコア,ヒストン修飾,DNAメチル化,ユークロマチン,ヘテロクロマチン	講義	対面	臨床 小講堂 3113
3 — 4	6月24日(火)	3,4	DNAの複製と修復	〃	複製起点,複製フォーク,岡崎フラグメント,DNAポリメラーゼ,校正,テロメラーゼ,変異,誤対合,互変異性,DNAの損傷,除去修復,相同組み換え,非相同末端連結	〃	対面	臨床 小講堂 3113
5 — 6	6月26日(木)	3,4	DNAからタンパク質へ	副島	プロモーター, RNAポリメラーゼ,転写基本因子,転写開始と伸長, RNAプロセッシング,スプライシング, mRNA, Readingframe, コドン, アンチコドン, リボソーム, tRNA, 翻訳, 遺伝子変異	〃	対面	臨床 小講堂 3113

No.	月日(曜)	時限	項 目	担当	キーワード	授業 形態	方法等	講義室
7 — 8	6月30日(月)	1,2	遺伝子発現の調節	〃	エンハンサー, 転写活性化因子, 介在因子, DNA結合タンパク質, マスター転写因子, クロマチン, エピジェネティクス, DNAメチル化, ヒストン化学修飾, ヒストンコード, マイクロRNA, ユビキチン, プロテアソーム	講義	対面	臨床 小講堂 3113
9 — 10	7月1日(火)	3,4	遺伝子とゲノムの進化	原	生命の系統樹, ヒトのゲノム, 遺伝子多型, 変異, 点変異, 遺伝子重複, 遺伝子ファミリー, 転移因子	〃	対面	第1 講義室
11 — 12	7月7日(月)	1,2	遺伝子の構造と機能の 解析(1)	〃	制限酵素, ハイブリッド形成, サザンブロット, FISH, PCR, クローニング, サンガー法, ノーザンブロット, RT-PCR	〃	対面	第1 講義室
13 — 14	7月14日(月)	1,2	遺伝子の構造と機能の 解析(2)	〃	抗原抗体反応, SDS-PAGE, ウェスタンブロット, 免疫染色, バイサルファイト処理, クロマチン免疫沈降, 次世代シーケンサー, エキソーム, トランスクリプトーム, エピゲノム, ゲノム編集, CRISPR/Cas9	〃	対面	第1 講義室
15	7月15日(火)	3	MCQ講義(1)	一丸 副島	一丸・副島担当講義の内容に関してmultiple choice question形式の講義を行う	〃	対面	第1 講義室
16	7月18日(金)	3	MCQ講義(2)	原	原担当講義の内容に関してmultiple choice question形式の講義を行う	〃	対面	第1 講義室
17	7月25日(金)	3	試験	副島 原 一丸		試験	対面	試験室 看護学科 6階
	9月30日(火)	2	再試験	副島 原 一丸		試験	対面	試験室 看護学科 6階

7. リソースパーソン/担当者一覧

「2. 講義・実習項目および学修目標」参照

(オフィスアワー等は巻末参照)

分子生物学Ⅱ（遺伝子と細胞制御）

学士力番号 1－(3)

教科主任 副 島 英 伸

1. 科目の概要

分子生物学Ⅱは、分子生物学Ⅰを基盤とし、以降の基礎医学科目、特に遺伝医学を学修するための橋渡しとなる科目である。細胞の正常な構造と機能を理解するため、細胞内部構築とその挙動という観点からシグナル伝達、細胞周期・細胞分裂、および細胞死について学修する。さらに細胞の作る社会という観点からがんと発生について学修する。これらを習得するためには、自らを省察し、自己主導型学習の習慣を身につけることが必要である。また、実習を通じて、基礎医学的研究の方法論と倫理を理解し、問題解決のための論理的・批判的な思考を涵養する。

2. 講義項目および学修目標

No.	講義・実習項目	所属	担当者	学修目標	形式
1	細胞の情報伝達	分子生命科学	原 聡史	- 情報伝達の種類と機能について理解している。 - 受容体の種類・細胞内局在・機能、受容体による細胞内シグナル伝達過程について理解している。	講義
2	細胞周期の調節と細胞分裂	分子生命科学	副島 英伸	- 染色体の構造を理解し、ゲノムと染色体及び遺伝子の構造と関係性、体細胞分裂及び減数分裂における染色体の挙動について理解している。 - 染色体異常による疾患を挙げ、遺伝様式を含め理解している。	講義
3	細胞死	分子生命科学	副島 英伸	- ネクローシスとアポトーシスの違いを含め、細胞傷害・変性と細胞死の多様性、病因と意義について理解している。 - 細胞傷害・変性と細胞死の細胞と組織の形態的変化の特徴について理解している。	講義
4	がん	分子生命科学	副島 英伸	- 自律性の増殖、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて理解している。 - がんの原因や遺伝子変化について概要を理解している。 - がんの転移について概要を理解している。 - 腫瘍の定義とその特性について、ゲノム異常や分子機構(エピゲノム修飾を含む)とともに理解している。 - 腫瘍性疾患発症の遺伝的素因・基礎疾患・感染症・環境生活習慣等のリスク因子、腫瘍の予防・検診について理解している。	講義
5	発生	分子生命科学	一丸武作志	配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の全体像、胚内体腔の形成過程について概要を理解している。	講義
6	科学的探求	創薬科学共同研究講座	嬉野 博志	- 医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与して医学を創造する。 - 最先端の研究に刺激を受ける。 - ロールモデルとしての研究者の生き方に触れる。 - 先人の偉業を知り、新たな発想を育む。 - 医療の実践が基礎医学・臨床医学・社会医学の研究に基づいていることを理解する。	講義

No.	講義・実習項目	所属	担当者	学修目標	形式
7	PCRを用いたDNA多型の解析	分子生命科学	副島 英伸 原 聡史 一丸武作志	・ゲノムDNAの抽出方法を説明することができる。 ・PCRの原理と応用例を説明することができる。 ・DNA多型マーカーについて説明することができる。 ・実験結果を科学的に説明し、考察することができる ・実験に必要な試薬・機器を正しく使用することができる。	実習

3. 評価の方法と基準

1) 評価方法

・受験資格については以下のすべてを満たすことを条件とする。

- ① MCQ講義を除く12回の講義のうち9回以上について学習課題を期限までに提出すること（キーワードを二つ挙げ、ひとつにつき100～150字にまとめてe-learningの回答フォームに入力すること）

※ 課題提出期限は、講義日の翌日23:59とする。

※ 提出期限を過ぎての課題提出は受け付けない。

- ② すべてのMCQ講義について、事前課題を提出した上で出席すること（MCQ講義の詳細はeラーニングHPに掲載する）

※ 期限までに事前課題を提出しなかった場合は本試験において減点する。

※ 提出期限を過ぎての課題提出は受け付けない。

※ 15分以上の遅刻は欠席とする。

※ やむを得ず欠席する場合は、欠席届を提出すること（欠席届の詳細は学生課に問い合わせること）。

- ③ 科学的探求講義（嬉野担当）に出席し、学習課題を期限までに提出すること（講義の感想をe-learningの回答フォームに入力すること）

※ 15分以上の遅刻は欠席とする。

※ やむを得ず欠席する場合は、欠席届を提出すること（欠席届の詳細は学生課に問い合わせること）。

※ 課題提出期限は、講義日の翌日23:59とする。

※ 提出期限を過ぎての課題提出は受け付けない。

- ④ 実習に出席し、レポートを提出すること。

※ 事前に実習書を配布する。

※ 30分以上の遅刻は欠席とする。

※ やむを得ず欠席する場合は、欠席届を提出すること（欠席届の詳細は学生課に問い合わせること）。

※ レポート作成要領については別途指示する。

・受験資格を満たし、2) で示す合格判定基準に達した場合に合格とする。

・学修目標については、上記により評価する。

2) 評価基準

・筆記試験（100点）および実習レポート（10点）により評価する。

・合格判定基準は、上記の合計110点の60%の正答率を基本線とし、試験の難易度によって調整する。

・実習における遅刻・欠席は、筆記試験の結果にかかわらず不合格とする。

3) 評価結果の開示

・試験答案および実習レポートの採点結果、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意

- ・不誠実な履修態度の学生、学力の向上を怠る姿勢に改善がみられない学生、不正行為を行った学生は、プロフェッショナルリズムが理解できていないと判断し、試験の成績にかかわらず不合格とする。
- ・正当な事由のない実習の欠席は認めない。
- ・学修目標、日程表に挙げた項目やキーワードについて予習をすること。

5. テキスト等

1) テキスト

Essential 細胞生物学 第5版 Bruce Alberts他著 中村桂子・松原謙一・榊佳之・水島昇監訳 南江堂
2021 ￥8,000

2) 指定図書

細胞の分子生物学 第6版 Bruce Alberts他著 中村桂子・松原謙一監訳 ニュートンプレス 2017
￥22,300

3) 参考書

- (1) ワインバーグ がんの生物学 (原書第2版) Robert A Weinberg著 武藤誠・青木正博訳 南江堂 2017
￥14,000
- (2) ギルバート発生生物学 第10版 Scott F. Gilbert著 阿形清和・高橋淑子監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2015 ￥10,000
- (3) ラーセン 人体発生学 第4版 Gary C Schoenwolf他著 仲村春和他訳 西村書店 2013 ￥6,600

6. 日 程 表

No.	月日(曜)	時限	項 目	科	担当者	キ ー ワ ー ド	授業 形態	方法等	講義室
1	10月14日 (火)	3,4	細胞の情報伝達(1)	分 子 生 命 科 学	原	シグナル分子, シグナル伝達, リン酸化反応, 受容体, 分子スイッチ, 二次メッセンジャー, Gタンパク, Rasタンパク質, 環状AMP, カルシウムイオン, ステロイドホルモンレセプター	講義	対面	第1講義室
2									
3	10月20日 (月)	1,2	細胞の情報伝達(2)	〃	〃	膜型受容体, Gタンパク連結型受容体, アデニル酸シクラーゼ, ホスホリパーゼ	〃	対面	第1講義室
4									
5	10月21日 (火)	3,4	細胞の情報伝達(3)	〃	〃	チロシンキナーゼ, 酵素連結型受容体, サイトカイン受容体	〃	対面	第1講義室
6									
7	10月23日 (木)	3,4	細胞周期	〃	副島	細胞周期, Cdk, サイクリン, Cdk阻害因子, チェックポイント, Rb, p53	〃	対面	第1講義室
8									
9	10月27日 (月)	1,2	体細胞分裂	〃	〃	有糸分裂, M期, 姉妹染色分体, 中心体, 紡錘体, 微小管, モータータンパク, セントロメア, 動原体, 分裂溝, 収縮環	〃	対面	第1講義室
10									
11	10月28日 (火)	3,4	減数分裂	〃	〃	減数分裂, 相同染色体, 二価染色体, シナプトネマ構造, 交差, キアズマ, 相同組換え, 卵形成, 精子形成, 染色体不分離, 染色体異常と疾患	〃	対面	第1講義室
12									
13	10月30日 (木)	3,4	細胞死・細胞の分裂・成長の調節	〃	〃	アポトーシス, ネクローシス, カスパーゼ, 外部経路, 内部経路, Bcl2ファミリー, 分裂促進因子, 増殖因子, 生存因子	〃	対面	第1講義室
14									

No.	月日(曜)	時限	項 目	科	担当者	キ ー ワ ー ド	授業 形態	方法等	講義室
15	11月6日 (木)	3,4	がん(1)	分 子 生 命 学 科	副島	良性腫瘍, 悪性腫瘍, がん細胞, 浸 潤, 転移, 多段階発がん, 発がん因 子	講義	対面	第1 講義室
16									
17	11月10日 (月)	1,2	がん(2)	"	"	DNA多型, 突然変異, がん原遺伝子, がん遺伝子, がん抑制遺伝子, two- hit theory, LOH, 優性阻害, ハプロ 不全, <i>Ras</i> , <i>Myc</i> , <i>BCR-ABL</i> , <i>Rb</i> , <i>p53</i>	"	対面	第1 講義室
18									
19	11月11日 (火)	3,4	がん(3)	"	"	APC, エピジェネティクス, DNAメ チル化, CpGアイランド, ヒストン 修飾, がん治療, 分子標的薬	"	対面	第1 講義室
20									
21	11月13日 (木)	3,4	発生(1)	"	一丸	動物の初期発生過程, 胚葉分化	"	対面	第1 講義室
22									
23	11月17日 (月)	1,2	発生(2)	"	"	モザイク発生と調節発生, 分化と 決定, 分化と遺伝子発現, 脊椎動物 の形態形成, 卵極性遺伝子, 母性効 果遺伝子	"	対面	第1 講義室
24									
25	11月20日 (木)	3	MCQ講義	"	副島	副島担当講義の内容に関してmult iple choice question形式の講義を 行う	"	対面	第1 講義室
26	11月25日 (火)	3	科学的探求	創薬科学 共同研究 講 座	嬉野	がん、創薬、研究、エピゲノム	"	対面	第1 講義室
27	11月27日 (木)	3	MCQ講義	分 子 生 命 学 科	原 一丸	原・一丸担当講義の内容に関して multiple choice question形式の講 義を行う	"	対面	第1 講義室
28	12月11日 (木)	3,4	試験	"	副島 原 一丸		試験	対面	試験室 看護学科 6階
	1月27日 (火)	3,4	再試験	"	副島 原 一丸		試験	対面	第1 講義室

※東元担当講義は、講義当日から2日間のみ視聴可能

分子生物学Ⅱ実習

No.	月日(曜)	時限	項 目	科	担当者	キ ー ワ ー ド	授業 形態	方法等	講義室
29 ～ 33	12月1日 (月)	1～4	PCRを用いたDNA多型 の解析	分 子 生 命 学 科	副島 原 一丸	実習書を参照	実習	対面	3階 実習室

7. リソースパーソン／担当者一覧

「2. 講義・実習項目および学修目標」参照

(オフィスアワー等は巻末参照)

人 体 発 生 学

学士力番号 1－(3)

教科主任 城 戸 瑞 穂

1. 科目の概要

正常な人体の構造の理解には、生殖細胞から組織や器官が形成され個体へと発生していく過程の学修が重要である。発生過程で見られる細胞、組織、器官および体全体を時間・空間的なダイナミックな変化として捉え、正常な発生を理解するとともに個体差や発生異常の機構を理解する。人体発生学では、細胞生物学・組織学・解剖学と関連させながら、細胞レベルから肉眼レベルさらには病態の理解に資する学識を身につけること目的とする。

2. 講義項目および学修目標

No.	講義項目	学修目標	形式
1	個体発生	配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の全体像を説明できる。	講義
		体節の形成と分化を説明できる。	講義
		胚内体腔の形成過程を概説できる。	講義
2	器官発生	咽頭弓・咽頭嚢の分化と頭・頸部と顔面・口腔の形成過程を概説できる。	講義
		消化・呼吸器系各器官の形成過程を概説できる。	講義
		心血管系の形成過程を説明できる。	講義
		泌尿生殖器系各器官の形成過程を概説できる。	講義
		体幹と四肢の骨格と筋の形成過程を概説できる。	講義
		神経管の分化と脳、脊髄、視覚器、平衡聴覚器と自律神経系の形成過程を概説できる。	講義

3. 評価の方法と基準

1) 評価方法

- ・学修目標に基づき、レポート等課題と筆記試験及び態度等による総合評価

2) 評価基準

- ・概ね6割以上を合格として総合的に評価する。

3) 評価結果の開示

- ・試験結果発表後1月以内に、希望者には答案等に基づき評価の説明を行う。オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意

私たちのからだがかどのように形づくられるのかを理解するために、肉眼解剖学と関連づけて学ぶこと。身体の解剖学的な特徴がいか形成されるのか、疾患とのどのように繋がるのかを理解すること。

5. テキスト等

1) テキスト

下記のいずれかを教科書として読了すること。

- ① カラー図解人体発生学講義ノート第3版 塩田浩平著 金芳堂 2025 ¥6,820
- ② ラングマン人体発生学 第12版 T.W. Sadler 著 安田峯生・山田重人 訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2024 ¥9,350
- ③ ムーア人体発生学 原著第11版 K.L. Moore & T.V.N. Persaud 著 瀬口春道 他訳 医歯薬出版 2022 ¥11,000

2) 参考書

ギルバート発生生物学 S.F. Gilbert & M.J.F. Barresi 著 阿形清和・高橋淑子 監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2015 ¥11,000

カラー版 ラーセン人体発生学 第4版 G.C. Schoenwolfら 著 仲村春和・大谷浩 監訳 西村書店 2013 ¥6,600 品切れ刊行予定なし

6. 日 程 表

No.	月 日 (曜)	時限	項 目	担当者	キーワード	授業形態	方法等	講義室
1	9月24日(水)	3	生殖細胞形成	城戸	原始生殖細胞, 減数分裂, 精子発生, 精子形成, 卵子発生, 卵胞発育, 排卵	講義	対面	第1講義室
2		4	受精・着床	城戸	受精能力獲得, 先体反応, 透明体反応, 接合子形成, 卵割, 桑実胚, 胚盤胞, 着床, 先天異常, 幹細胞, 生殖補助技術	〃	対面	
3	9月25日(木)	3	胚盤・胚子	城戸	二層性胚盤, 三層性胚盤, 原始結節, 体軸形成, 内胚葉, 中胚葉, 外胚葉, 羊膜, 卵黄囊, 胚子形成, 胚子期	〃	対面	第1講義室
4		4	胎児・胎盤	城戸	胎児期, 胎児年齢, 栄養膜細胞, 栄養膜合細胞体細胞, 絨毛, 絨毛膜, 胎膜	〃	対面	
5	9月26日(金)	3	頭頸部の形成	城戸	神経堤, 咽頭弓, 咽頭嚢, 舌, 顔, 鼻腔, 口蓋	〃	遠隔	第1講義室
6		4	呼吸・消化器系	石井	喉頭, 気管, 気管支・肺, 胸膜腔, 前腸, 中腸, 後腸, 肝芽, 脾芽, 間膜, 腹膜腔	〃	対面	
7	10月2日(木)	3	心臓・循環器系	城戸	心膜腔, 心筒, 心球, 心室, 心房, 静脈洞, 心内膜床, 心房・心室の区分, 卵円孔, 心球隆起, 大動脈弓, 胎児循環	〃	遠隔	第1講義室
8		4	泌尿器・生殖器系	吉本	前腎, 中腎, 後腎, 尿生殖洞, Müller管, Wolff管, 膀胱・尿道, 精巣, 卵巣, 外部生殖器, 尿道管	〃	対面	
9	10月9日(木)	3	神経系	城戸	神経管, 翼板, 基板, 境界溝, 前脳, 中脳, 後脳, 小脳, 脊髄, 神経堤, 末梢神経系	〃	対面	第1講義室
10		4	骨格・筋・外皮系	城戸	体節, 筋板, 椎板, 皮板, 軸骨格, 体肢, 皮膚分節	〃	対面	
11	11月6日(木)	2	試験	城戸 他		試験	対面	試験室 看護学科6階
13	12月23日(火)	3	再試験	城戸 他		試験	対面	試験室 看護学科6階
14		4						

7. リソースパーソン / 担当者一覧

生体構造機能学 城戸 瑞穂
吉本 怜子
石井 由美子

肉眼解剖学概説

学士力番号 1-(3)

教科主任 倉岡晃夫

1. 科目の概要

肉眼解剖学概説は、正常な人体の肉眼レベルの構造と機能について、器官系ごとにその概要を知ることが目的とする。ここで学ぶ内容は、2年次の肉眼解剖学実習をはじめとする基礎医学科目に直結するのみならず、3、4年次の臨床医学で学ぶ病態の理解や、ベッドサイドにおける問題解決に応用可能な“医学的推論”の思考基盤を確立する上で極めて重要である。また、本科目で修得すべき知識量は膨大であるが、これらを効率的にインプットし、かつ医学的推論に応用できるレベルまでアウトプット能力を高めるためには、自己主導型の学修習慣を一刻も早く身に付けることが肝要である。

2. 講義項目および学修目標

No.	講義項目	学修目標	形式
1, 2	イントロダクション 解剖学概説	医学科における学習方法を体得する。人体の構成、器官系の分類、人体における断面、位置関係、方向等につき、解剖学用語を用いて説明できる。	講義
3	骨格系	骨の基本構造・種類、関節の構造につき、解剖学用語を用いて説明できる。また、身体の部位に応じた骨格の構成を説明できる。	講義
4	筋系	骨格筋の構築・種類につき、解剖学用語を用いて説明できる。また、身体の部位に応じた骨格筋の構成を説明できる。	講義
5～7	循環器系	血液循環の概要、心臓・血管・リンパ系器官の構造、末梢循環の特徴につき、解剖学用語を用いて説明できる。	講義
8, 9	消化器系	消化管、消化腺の構成と構造につき、解剖学用語を用いて説明できる。	講義
10	呼吸器系	気道を構成する部位と肺の構造につき、解剖学用語を用いて説明できる。	講義
11	泌尿器系	腎および尿路の構造につき、解剖学用語を用いて説明できる。	講義
12	生殖器系	内・外生殖器の構造につき、解剖学用語を用いて説明できる。	講義
13	内分泌系	種々の内分泌器官の位置、構造、機能につき、解剖学用語を用いて説明できる。	講義
14	末梢神経系	末梢神経系の構築、特殊構造（神経叢、神経節）につき、解剖学用語を用いて説明できる。	講義
15	感覚器系	視覚、聴覚、嗅覚、味覚を受容する構造につき、解剖学用語を用いて機能の概要を説明できる。	講義

3. 評価の方法と基準

1) 受験資格

- ・Phase II 共通の出席・レポート提出に係る基準をクリアし、かつ適切な態度で履修している者に、最終試験（再試験）の受験資格を与える。

2) 評価方法

- ・学修目標 1～15については、最終試験として一般問題、さらに学修目標 5～7、14については予告問題を課し、いずれも合格基準をクリアしている場合に限り合格とする。
- ・一般問題については、概ね60%の得点を合格基準とし、試験の難易度によって調整する。

- ・予告問題については、概ね90%の正答率をもって合格とする。

3) 評価結果の開示

- ・希望者には、試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。試験結果発表後1ヶ月以内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意

- ・参考書やアトラス等を活用し、学修項目に掲げた内容について予習・復習を着実に行うことが合格への第一歩である。また、試験直前の一夜漬けは絶対に不可能である。試験準備はくれぐれも計画的に！

5. テキスト等

1) テキスト

特に指定しないが、講義で理解できなかったことを参照するために、3)に掲げたような参考書を一冊入手しておくこと（他の書籍でも構わないし、肉眼解剖学の領域は新知見がほぼ皆無なため、中古書籍でも構わない）。

2) 解剖アトラス（2年次の肉眼解剖学実習では、いずれかを必携としている）

- ① プロメテウス解剖学コアアトラス 坂井建雄監訳 第4版 医学書院 2022 ￥10,450
- ② ネットー解剖学アトラス 相磯貞和・今西宣晶監訳 原書第7版 南江堂 2022 ￥11,000
- ③ グラント解剖学図譜 坂井建雄監訳 第8版 医学書院 2022 ￥16,500
- ④ グレイ解剖学アトラス 秋田恵一訳 原著第3版 エルゼビア・ジャパン 2021 ￥11,000

3) 参考書

- ① 解剖学講義 伊藤隆原著 改訂3版 南山堂 2012 ￥12,100
- ② グレイ解剖学 秋田恵一訳 原著第4版 エルゼビア・ジャパン 2019 ￥13,200
- ③ 臨床のための解剖学 佐藤達夫監訳 第3版 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2024 ￥15,950

6. 日 程 表

No.	月 日 (曜)	時限	項 目	担当者	キーワード	授業形態	方法等	講義室
1	9月19日(金)	1	肉眼解剖学概説1	倉岡	イントロダクション, 器官系	講義	対面	第1講義室
2	9月26日(金)	1	肉眼解剖学概説2	倉岡	人体の部位, 解剖学用語	講義	対面	第1講義室
3	10月3日(金)	1	肉眼解剖学概説3	菊池	骨格系	講義	対面	第1講義室
4	10月10日(金)	1	肉眼解剖学概説4	菊池	筋系	講義	対面	第1講義室
5	10月17日(金)	1	肉眼解剖学概説5	倉岡	循環器系Ⅰ	講義	対面	第1講義室
6	10月24日(金)	1	肉眼解剖学概説6	倉岡	循環器系Ⅱ	講義	対面	第1講義室
7	10月31日(金)	1	肉眼解剖学概説7	倉岡	循環器系Ⅲ	講義	対面	第1講義室
8	11月7日(金)	1	肉眼解剖学概説8	菊池	消化器系Ⅰ	講義	対面	第1講義室

No.	月 日 (曜)	時限	項 目	担当者	キーワード	授業 形態	方法等	講義室
9	11月14日(金)	1	肉眼解剖学概説9	菊池	消化器系Ⅱ	講義	対面	第1講義室
10	11月21日(金)	1	肉眼解剖学概説10	川久保	呼吸器系	講義	対面	第1講義室
11	11月28日(金)	1	肉眼解剖学概説11	川久保	泌尿器系	講義	対面	第1講義室
12	12月5日(金)	1	肉眼解剖学概説12	川久保	生殖器系	講義	対面	第3講義室
13	1月9日(木)	1	肉眼解剖学概説13	川久保	内分泌系	講義	対面	第1講義室
14	1月16日(木)	1	肉眼解剖学概説14	倉岡	末梢神経系	講義	対面	第1講義室
15	1月23日(木)	1	肉眼解剖学概説15	倉岡	感覚器系	講義	対面	第1講義室
16	2月6日(木)	3	肉眼解剖学概説試験	倉岡・菊池・ 川久保	—	試験	対面	試験室 看護学科6階
	2月24日(月)	2	〃 再試験	倉岡・菊池・ 川久保	—	試験	対面	試験室 看護学科6階

7. リソースパーソン / 担当者一覧

生体構造機能学講座 解剖学・人類学分野 倉岡 晃夫, 菊池 泰弘, 川久保 善智

Phase Vのうち， 1 年次で履修できる選択コースについて

選択コースの実施及び履修に関する取扱要項
地域枠入学生特別プログラム

佐賀大学医学部医学科選択コースの実施及び履修に関する取扱要項

平成17年3月17日
制 定

(趣 旨)

第1条 佐賀大学医学部医学科授業科目の選択コースの実施及び履修に関しては、佐賀大学医学部規則及び佐賀大学医学部履修細則に定めるもののほか、この要項の定めるところによる。

(選択コースの位置づけ)

第2条 選択コースは、全ての学生に必須のコア・カリキュラムに対して、さらに学習を深化させるためのアドバンスド・カリキュラム並びに学習内容の多様化を推進するためのカリキュラムとして実施する。

(選択コース科目)

第3条 選択コースは、次の各号の授業科目区分により選択科目を開設する。

(1) 基礎系・臨床系選択科目

基礎系・臨床系の教育・研究分野に関連した学習を深化させるための科目を2年次以降に順次開設する。

(2) 地域枠入学生特別プログラム

佐賀県内医療者との交流や医学学習への意欲向上を目的とする地域枠入学生特別プログラムを、1年次から開設する。

(3) 特定プログラム教育科目

佐賀大学学部間共通教育科目履修規程（平成25年2月27日制定）による特定プログラム教育科目を履修した場合には、選択コースの単位として認めることができる。

(4) 学外研修・ボランティア等

多様で幅広い学習を推進するために、学外での研修やボランティア活動等が選択コース科目としての水準を満たす場合には、選択コースの単位として認めることができる。

(科目の開設)

第4条 選択コース科目の開設は、教授、准教授又は講師が科目担当責任者（教科主任）として開設し、毎年度更新する。

2 科目開設にあたっては、対象学年、受講者数等に制限を設けることができる。

(開設様式と単位)

第5条 選択コース科目は、次の各号の様式及び単位換算で開設する。

(1) 定期的授業

90分15回の授業を1ユニットとして開設する方式。15回（30時間）を1単位とする。

(2) 終日連続集中授業

終日2週間連続の総合授業（講義、演習、実習等の組合せ）を1ユニットとして開設する方式。1週40時間を1単位（2週間で2単位）とする。

(3) 間歇的集中授業

終日連続ではないが、集中的な総合授業（講義、演習、実習等の組合せ）を積み重ねる方式。40時間分を1単位とする。

(科目の開講)

第6条 選択コース科目の開講時期及び時間帯は、科目担当責任者が予め設定若しくは科目担当責任者が履修希望

学生と相談の上決定する等、科目担当責任者の裁量とする。

(成績の評価)

第7条 第3条第1項第1号から第3号に規定する選択コース科目の成績評価は、科目担当責任者の責任において行う。

2 第3条第1項第4号に規定する学外研修・ボランティア等の選択コース科目認定については、教育委員会で審査する。ただし、基礎系・臨床系選択科目として学外で学習したものは、学外研修とせず、基礎系・臨床系選択科目として扱う。

(履修要件と制限)

第8条 第3条第1項第1号から第4号に規定する選択コース科目の中から、6単位以上の修得を卒業要件とするが、卒業要件単位としては、特別プログラム教育科目からは2単位、学外研修・ボランティア等からは1単位を上限とする。

(履修方法)

第9条 1年次から4年次までの履修希望学生は、選択コース科目担当者と相談の上、履修手続きを行うものとする。ただし、アドバンスドコースとして位置づけられる選択コース科目の場合は、原則として、関連授業科目を修得した後に履修するものとする。

2 5年次及び6年次の学生は、クラスごとに履修希望調整の後、履修手続きを行うものとする。

附 則

- 1 この要項は、平成17年4月1日から実施し、平成16年度以降の医学科入学者から適用する。
- 2 この要項の実施の際、医学科に平成15年度以前に入学した者の選択コースの実施及び履修に関する取扱は、なお従前の例による。

附 則（平成19年3月8日改正）

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

附 則（平成23年12月8日改正）

- 1 この要項は、平成23年4月1日から実施する。
- 2 この要項の実施の際、医学科に平成22年度以前に入学した者の選択コースの実施及び履修に関する取扱は、なお従前の例による。

附 則（平成25年1月16日改正）

- 1 この要項は、平成25年4月1日から実施する。
- 2 この要項の実施の際、医学科に平成24年度以前に入学した者の選択コースの実施及び履修に関する取扱は、なお従前の例による。

地域枠入学生特別プログラム

地域枠入学生特別プログラムの概要

本プログラムは、地域枠入学生（佐賀県推薦入学、学校推薦佐賀県枠）の医学生を対象に開発された特別なプログラムである。2021年（令和3年）より「地域枠」の定義が見直され、佐賀県推薦入学生のみが狭義の「地域枠」となったが、学校推薦佐賀県枠入学生も広義の「地域枠」とし「地域枠入学生特別プログラム」という呼称を継続して使用する。

本プログラムは必修ではなくPhase V（選択コース）と位置付けられているが、一般の学生が履修する選択コースの単なる“代わり”ではなく、今後のキャリア形成を考える上で地域枠学生には“不可欠な”コースと考えられる。選択コースとして認定される単位は2単位までと定められているため、2単位を超えた分は加算されないが、できるだけ多くのプログラムへの参加が望ましい。

本プログラムでは地域枠入学生を優先するが、それ以外の学生も単位修得が可能である（下表参照）。応募者多数の場合は医師育成・定着支援センターで調整を行うことがある。

授業名	地域枠医学科生		地域枠以外の 医学科生
	佐賀県推薦入学	学校推薦佐賀県枠	
(1) 基幹病院・中核病院実習	◎	◎	△
(2) 地域医療／キャリア形成セミナー	◎（＊）	◎	○
(3) 夏期地域医療実習	◎（＊）	△	△
(4) 学外チューター制度	◎（＊）	×	×
(5) 西部医療圏等での病院実習	◎（＊）	○	○

◎：原則参加，○：参加可能，△：若干名のみ参加可能，×：対象外

＊キャリア形成卒前プラン：修学資金の貸与を受け、卒業後に「キャリア形成プログラム」の適応を受ける地域枠の医学生が、卒業前の学生の中から地域医療マインドを育むため、都道府県が策定した地域医療に関する実習等のこと。2021年（令和3年）から医療法で規定された。

なお、医師育成・定着支援センターでは、佐賀県から任命された4名のキャリアコーディネーター（医師）が全医学科生を対象に「キャリア支援面談」を行っている（地域枠医学生は必須）。大いに活用し、今後のキャリア形成の一助にして欲しい。

学士力番号 2－（2）

全プログラム共通

1. コースの概要

将来佐賀県の地域医療に貢献する医師となるために、県内の地域医療提供体制や地域医療の実際を学ぶことを目的としている。県内の医療関係者や将来佐賀県の医療に従事する自大学・他大学の医学生との交流を通して、学修のモチベーションを高め、自分がどのような能力を修得しないといけないかを継続的に考える習慣を身につけることができるよう、複数のプログラムから構成されている。

本学の卒業時学修成果に掲げられている、プロフェッショナルリズム、コミュニケーションと協働、国際的な視野に基づく地域医療への貢献、全大学が共通して取り組むべき「医学教育モデル・コア・カリキュラム」に掲げられている、PR、GE、LL、CM、IP、SOに関しては、どのプログラムでも共通して修得することができ

る（文末の表を参照）。

2. 実習項目および学修目標

（実習項目）講義，実習，グループ討論など

（学修目標）

- ・佐賀県内の地域医療提供体制を知り，地域医療の現状と課題について理解する。
- ・地域医療の学修のモチベーションを高め，今後の自己学修目標を考える。
- ・自分のキャリア形成に継続的に関心を持つ。
- ・将来佐賀県の医療に従事する自大学・他大学の医学生や県内の医療関係者と積極的に交流し良好な関係を構築する。
- ・チーム医療の重要性や介護・福祉との連携の必要性を理解する。
- ・地域医療に従事する理想の医師像を継続的にイメージしていく。

3. 評価の方法と基準

1) 評価方法 観察記録及びレポート

2) 評価基準 実習への参加姿勢と指定のレポートの内容から総合的に評価する。

3) 評価結果の開示 希望する場合は，電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意

講義は自分の将来にどのように役立つか関連付けながら集中して聴講すること。実習中は指導医のみならず，全ての医療スタッフ及び実習に協力して下さる患者さん方への感謝の気持ちを忘れずに行動すること。服装・髪・爪の清潔さなど身だしなみには十分注意し，きちんと挨拶をする等医学生としての自覚を持って行動すること。白衣が必要な実習に関しては別途連絡をする。

5. テキスト等 特になし

6. 日程表 各コースの記載を参照

7. リソースパーソン／担当者一覧／連絡先

江村 正，徳島 緑，七條 千佳，実習関連施設の指導者，学内外の講師

連絡先 医師育成・定着支援センター（ ）

（1）佐賀県内基幹病院・中核病院実習

1. コースの概要

佐賀県内の基幹病院・中核病院での実習を通し，基幹病院・中核病院に求められている役割を理解し，早期から佐賀県の地域医療に関心を持つ。実習初日にオリエンテーション，講義等を行い，翌日から3日間下記の医療機関で実習を行う。最終日にグループ討論，まとめ，評価を行う。

2. 実習項目および学修目標

（学修目標）

- ・佐賀県内基幹病院・中核病院に求められている役割を理解する。

3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

6. 日程表

学習日数 1週（1単位修得） 受入人数 1施設に1～2名（原則2名）

実施時期 夏季休暇最後の週（令和6年は9月9日～9月13日に行った）

対象 医学科1年生（地域枠学生を優先とする）

実施場所 佐賀県医療センター好生館，NHO佐賀病院，NHO嬉野医療センター，唐津赤十字病院，唐津市民病院きたはた，佐賀市立富士大和温泉病院，町立太良病院，伊万里有田共立病院，小城市民病院，織田病院（鹿島市），山元記念病院（伊万里市），今村病院（鳥栖市）（予定）

（２）地域医療セミナー／キャリア形成セミナー

１．コースの概要

県内外の地域医療の現状や課題についての理解を深める講演や，医師のキャリア形成に関する講演である。

２．講義・実習項目および学習目標

（学修目標）

- ・佐賀県内外における医療の現状を知る。
- ・さまざまな分野の講師等との交流を通して自分のキャリア形成を考える。

３．４．５．７．全プログラム共通を参照

６．日程表

学習日数 １回の参加で0.1単位修得

実施時期 適宜開催（医師育成・定着支援センターが主催・共催もしくは当センターが認めた講演・学術集会）。LiveCampusや学内掲示板等で連絡を行う。通常は講師の都合で17：30から行うが，可能であればいわゆる5コマ目（16：20－17：50）に行う。また学術集会等は土曜日，日曜日も開催される。

対 象 医学科１年生～６年生

（３）夏期地域医療実習（自治医科大学・佐賀大学・長崎大学合同夏期実習）

１．コースの概要

佐賀県出身の自治医科大学大学生及び長崎大学医学部の佐賀県枠学生との合同実習である。佐賀県健康福祉部医務課の協力を得て企画・運営する。将来佐賀県の地域医療に貢献する予定の医学生と離島やへき地に行き，佐賀県の地域医療の実際を体験する。地域医療へのモチベーションを高めることを目的とする。

２．実習項目および学修目標

（学修目標）

- ・離島やへき地の医療（在宅医療を含めて）を理解する。
- ・地域住民のニーズを知る。
- ・離島やへき地の抱える諸問題に関心を持ち，解決策を考える姿勢を維持する。
- ・将来佐賀県で働く学生同士と積極的に情報交換を行う。

３．４．５．７．全プログラム共通を参照

６．日程表

学習日数 ３日（0.6単位）（予定）

実施時期 夏期休暇中（令和６年は８月７日から９日まで二泊三日で行った。）

対 象 医学科１～４年生（佐賀県推薦入学の上級生優先とする）

連 絡 先 医師育成・定着支援センター（ ）

実施場所 佐賀県内の協力施設（予定）

(4) 学外チューター (alumni tutor) 制度

1. コースの概要

佐賀県で地域医療を行っているロールモデルの医師 (学外チューター, alumni tutor) と入学時早期より交流するプログラムである。学外チューターや他の医療スタッフとのミーティングやその医師の所属する医療施設の見学等を行う。

2. 実習項目および学修目標

(学修目標)

- ・地域医療に従事する理想の医師像を継続的にイメージしていく。

3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

6. 日程表

学習日数	年に数回, 数時間/回 (0.1単位/回)
実施時期	適宜 (土曜日午前中または休暇中の平日など)
対 象	医学科 1 年生 (令和7年度は佐賀県推薦入学生のみを対象)
連絡先	医師育成・定着支援センター ()
実施場所	佐賀県内の協力医療機関

(5) 西部医療圏等での病院実習

1. コースの概要

佐賀県の医師不足地域である西部医療圏などの医療機関を10名程度の医学生で訪問し, 講義や実習等を通して, その地域を知り, 地域医療の現状と課題を理解するプログラムである。

2. 実習項目および学修目標

(学修目標)

- ・医師不足地域特有の医療の課題を理解する。
- ・課題の解決策を学ぶ。
- ・地域を知る。

3. 4. 5. 7. 全プログラム共通を参照

6. 日程表

学習日数	1 年に 1 回 (0.2単位/回)	受入人数	1 回10名程度
実施時期	適宜		
対 象	全医学科生		
実施場所	西部医療圏等の協力医療機関		

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和４年度改訂版）

キャッチフレーズ「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」

PR：プロフェッショナリズム（Professionalism）

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていく。

GE：総合的に患者・生活者をみる姿勢（Generalism）

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現する。

LL：生涯にわたって共に学ぶ姿勢（Lifelong Learning）

安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続け、積極的に教育に携わっていく。

RE：科学的探究（Research）

医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与して医学を創造する。

PS：専門知識に基づいた問題解決能力（Problem Solving）

医学及び関連する学問分野の知識を身に付け、根拠に基づいた医療を基盤に、経験も踏まえながら、患者の抱える問題を解決する。

IT：情報・科学技術を活かす能力（Information Technology）

発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能等の情報・科学技術を活用しながら、医学研究・医療を実践する。

CS：患者ケアのための診療技能（Clinical Skills）

患者の苦痛や不安感に配慮し、確実に信頼される診療技能を磨き、患者中心の診療を実践する。

CM：コミュニケーション能力（Communication）

患者及び患者に関わる人たちと、相手の状況を考慮した上で良好な関係性を築き、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践する。

IP：多職種連携能力（Interprofessional Collaboration）

医療・保健・福祉・介護など患者・家族に関わる全ての人々の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる。

SO：社会における医療の役割の理解（Medicine in Society）

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野なども持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努める。

6 学位授与の方針 教育課程編成・実施の方針

医学部医学科 学位授与の方針

【学位授与の方針】

佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。また、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

1. 知識と技能

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、基礎的な知識と技能ならびに多様な文化と価値観を理解するとともに、それらの知識を基に、医療職者としての自己の存在を歴史・社会・自然・人間生活と関連付けて理解できる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 医学・医療分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、医師としての業務を遂行する職業人として必要な実践能力を有する。

2. 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して地域における医療・保健・福祉・医療経済など包括医療を巡る動向等を含む現代的な課題に関心・理解を持ち、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的な思考に基づいて、その問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 研究室選択コース等の学習により医学・医療の進歩における生命科学・臨床医学研究の必要性を理解し、課題解決に向けての基本的研究技能と研究マインドを身に付けている。
- (3) グループ学習や臨床実習を通して人間理解に立った良い人間関係の形成、医療チームの一員としての協調・協働した行動、リーダーシップを発揮する率先した行動、後輩等に対する指導力などを身に付け、実践できる。

3. 医療を担う社会人としての資質

- (1) 問題解決型学習などを通して自己学習の習慣を身に付け、絶えず医療の質の向上に向けて生涯学習を行う意欲と態度を有する。
- (2) 6年間の教養教育及び専門教育課程を通して高い倫理観と多様な文化や価値観を理解しうる豊かな人間性を育み、医師の責務を自覚して継続的に社会に還元する強い志を有し、自らを律して社会および医師の規範に従って行動できる。

医学部医学科 教育課程編成・実施の方針

【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

1. 教育課程の編成

- (1) 効果的な学習成果を上げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した6年一貫の教育課程を編成する。
- (2) 教養教育において、市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能に関する授業科目（基本教養科目）、市民社会の一員として思考し活動するための技能に関する授業科目（外国語科目、情報リテラシー科目）、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけさせるための授業科目（大学入門科目、インターフェース科目）を、幅広く履修できるように配置する。
- (3) 教養教育における市民社会の一員として思考し活動するための技能に関する教育は、初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。
- (4) 医師として必要な素養、知識、技術を身に付けるための基本的事項を学習する専門教育科目（コア・カリキュラム）を、以下の「専門基礎科目」、「基礎医学科目」、「臨床・社会医学科目」、「臨床実習」に大別し、Phase I～Vの区分により1～6年次まで段階的に配置する。
 - ・「専門基礎科目」：高い倫理観と豊かな人間性を育むことを目標とした総合人間学（倫理、心理、法制、福祉、生活支援など）の授業科目で構成する。
 - ・「基礎医学科目」：医学に必要な基礎的な知識と技能を学ぶ授業科目（分子生物学Ⅰ・Ⅱ、免疫学、人体発生学、組織学、神経解剖学、肉眼解剖学概説、肉眼解剖学、生化学、動物性機能生理学、植物性機能生理学、薬理学、微生物学、病理学）で構成する。
 - ・「臨床・社会医学科目」：疾病とそのメカニズムに関する総合的な内容を人体の機能・系統別に学習する授業科目で構成し、知識の習得とともに、自己学習の習慣を身につけ、科学的論理的思考に基づいた問題解決に努めることを目標として少人数グループの問題解決型学習方式で実施する。
 - ・「臨床実習」：医学の知識・技術ならびに医師としての実践能力を習得するとともに、地域社会における医療の意義を理解し、医師の責務への自覚を培うキャリア教育の場として、またチーム医療の一員として他者と共感して良い人間関係を作る実践の場として、医学部附属病院と地域の医療機関との連携の下に実施する。
- (5) 学生の目的に応じた分野を自主的に発展させていくアドバンスド・コース科目（研究室等に配属する基礎系・臨床系選択コース、海外研修コースなど）をPhase Vとして開設する。

佐賀大学学士力と科目区分との対応表

学士力（大項目）	学士力（小項目）	科目区分
1. 基礎的な知識と技能	(1) 市民社会の一員として共通に求められる基礎的な知識と技能	基本教養科目
	(2) 市民社会の一員として思考し活動するための技能	外国語科目
		医学英語
		情報リテラシー科目
	(3) 専門分野に必要とされる基礎的な知識・技能	専門基礎科目
		基礎医学科目

2. 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目
		インターフェース科目
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	臨床・社会医学科目
		臨床実習
		選択科目
	(3) 課題発見につながる協調性と指導力	大学入門科目
		インターフェース科目
		臨床・社会医学科目
		臨床実習
3. 個人と社会の持続的発展を支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	インターフェース科目
	(2) 地域や社会への参画力と主体的に学び行動する力	インターフェース科目
		臨床実習
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	インターフェース科目
		臨床実習

2. 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。
- (2) 各授業科目に教科主任を置き、複数の担当教員により実施する授業の一貫性を担保するなど、授業科目を統括する。
- (3) 各Phaseにチェアパーソンを置き、Phase内およびPhase間の教育内容および実施の整合性・統合性を図る。

3. 教育・指導の方法

- (1) 講義による知識の学習と実験・実習による実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。
- (2) グループダイナミクスによる自己学習と問題解決法の獲得などの効果を狙った問題解決型学習（PBL，CBL）や演習を積極的に取り入れる。
- (3) 少人数の学生グループごとに指導教員（チューター）を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

4. 学修成果の評価

- (1) 授業科目の学修成果を評価するために、授業科目担当教員は、到達目標に応じて、筆記試験，レポート（論文），発表，活動内容等により多面的評価を行う。
- (2) 個別の授業科目の成績評価方法については、シラバスに明示する。
- (3) 成績の評語（評価）は、100点を満点とした評点又は評価基準に基づき判定するものとし、評点及び評価基準は、次の表に掲げるとおりとする。

評語 (評価)	評点	評価基準	合否 判定	成績評定 (G P)
秀	90点以上	学修到達目標を十分に達成し、極めて優秀な成果を 上げている	合格	4
優	80点以上90点未満	学修到達目標を十分に達成している。		3
良	70点以上80点未満	学修到達目標をおおむね達成している。		2
可	60点以上70点未満	学修到達目標を最低限達成している。		1
不可	60点未満	学修到達目標を達成していない。	不合格	0

※上記により評価が難しい授業科目は、合又は不可の評語によって表し、合を合格とし、不可を不合格とする。

- (4) 各Phaseの終了時に、各学生の学修到達度を評価し、進級判定を行う。
- (5) 全国共通の共用試験による臨床実習適格認定審査ならびに卒業認定試験を実施し、医師として必要な実践能力（統合された知識、技能、態度・行動に基づく総合的診断能力）の修得状況を判定する。
- (6) 教育課程を通した学修成果を、学士力項目の達成状況（ルーブリック評価等）及び各授業科目の成績を用いて総合的に評価する。
- (7) 成績評価の結果は、評価分布等を使用して定期的に点検を行い、必要に応じて教育方法等の改善を行う。

7 その他

コースナンバリングについて

○コースナンバリングとは

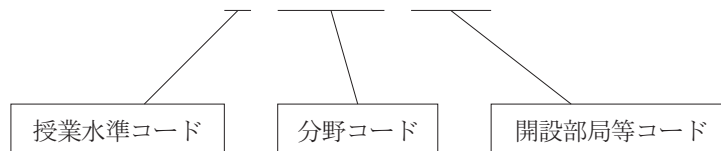
佐賀大学では、学生が受講する授業科目について、その学問分野と水準を容易に確認して主体的に学ぶことを支援するとともに、教育組織による学問分野と水準に基づいた教育カリキュラムの体系性や順次性の検証・改善に資するために、授業科目に番号を附し、授業科目の学問分野と水準等を示すコースナンバリング制度を導入します。

○コースナンバリングの意味

コースナンバーは、「授業水準」―「分野」―「開設部局等」からなる8桁の文字列で構成されています。

例：物理学の世界 I 1 220x-000

免疫学 2 491x-211



○各コードは、次の①から③に定める内容を示しています。

① 授業水準コード（1桁）

授業水準は、下記に示す1から5の5段階を数値で示す。

入門的・導入的（1年次履修程度）専門基礎	: 1
中程度の内容（2～4年次履修程度）専門必修	: 2
応用・高度な内容（5～6年次履修）専門選択・卒業制作・研究など	: 3
修士課程・博士前期課程	: 4
博士後期課程・博士課程	: 5

② 分野コード（4桁）

授業科目が対象とする主たる学問分野を日本図書分類要目表（第3次区分表）に基づき分類したコード（3桁）と各部局が定義できるアルファベット小文字（1桁）から構成されています。

（3桁＋1桁（アルファベット小文字）＝4桁）

・要目表による3桁の附番を原則とし、いずれの番号にも該当しない場合は、各学部がルールを定めて意味を定義し、アルファベットを附番しています。附番しない場合は、アルファベットの「x」を使用しています。

③ 開設部局等コード

開設部局等（学部・学科等）を示す3桁の数値で構成されています。

原則、学籍番号8桁（22211***）の「211」を利用する。（「211」は医学科を示す。）

【医学科】 **コースナンバリング（令和5年度以降入学生）**

区分	授 業 科 目	コース ナンバリング	区分	授 業 科 目	コース ナンバリング
専門基礎科目	生命倫理学	1491x-211	臨床実習・社会医学科目	臨床医学入門	2492x-211
	行動科学原論	1491x-211		循環器	2492x-211
	医療入門Ⅱ	1491x-211		呼吸器	2492x-211
	医療統計学	1491x-211		消化器	2492x-211
	物理学	1491x-211		代謝・内分泌・腎・泌尿器	2492x-211
	化学	1491x-211		血液・腫瘍・感染症	2492x-211
	生物学	1491x-211		皮膚・膠原	2492x-211
基礎医学科目	分子生物学Ⅰ	2491x-211		運動・感覚器	2492x-211
	分子生物学Ⅱ	2491x-211		精神・脳・神経	2492x-211
	免疫学	2491x-211		小児・女性	2492x-211
	人体発生学	2491x-211		救急・麻酔・総合診療	2492x-211
	組織学	2491x-211		社会医学・医療社会法制	2498x-211
	神経解剖学	2491x-211		統合医療	2492x-211
	肉眼解剖学概説	2491x-211		医学英語	2492x-211
	肉眼解剖学	2491x-211	臨床実習	臨床実習	3492x-211
	生化学	2491x-211		地域医療実習	3492x-211
	動物性機能生理学	2491x-211		関連教育病院実習	3492x-211
	植物性機能生理学	2491x-211	選択コース	基礎系・臨床系選択科目	3492x-211
	薬理学	2491x-211		地域枠入学生特別プログラム科目	3492x-211
	微生物学	2491x-211		特定プログラム教育科目	3492x-211
	病理学	2491x-211		学外研修・ボランティア等	3492x-211

※実務経験のある教員による授業科目について

「臨床・社会医学科目」と「臨床実習」の区分に属する全科目は、医師の実務経験を有している教員が臨床医学の実践的な教育を行う科目である。

アクティブラーニングについて

本学では、学生の能動的な学びを生み出すため、アクティブラーニング教育手法の導入を推進しています。

アクティブラーニングとは、教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修過程の中に知識獲得だけではなく、他者との協働を伴った「書く・話す・発表する」等の思考を活性化する活動があり、佐賀大学学士力が求める基礎的・汎用的能力の育成につながるような学修法と位置づけています。

アクティブラーニング教育手法の内容に応じて、以下に示すようにカテゴリー0からカテゴリー4までの5段階に分類しています。

アクティブラーニングのカテゴリー及び内容等について

カテゴリー	内 容
4	学生が自ら主体となって、学修の方向性を定め、問題解決に導くための授業。
3	グループや個人で行った能動的学修の成果を、教室内外で発表し、その評価を受けたり、質問に対応したりすることにより、学修した内容を深化させるための授業。
2	学生自らが自由に発言し、グループやペアでの協働活動により課題に取り組み、何らかの帰結に到達するための能動的学修の授業。
1	学生からの自由な発言機会はないものの、授業時間中に得られた知識や技能を自ら運用して、問題を解いたり、課題に取り組んだり、授業の振り返りをしたりする能動的学修を行う授業。
0	基本的に学生は着席のまま、講義を聞き、ノートを取り、知識や技能を習得に努める授業。

令和 6 年度 アクティブラーニング導入状況

【医学科】

区分	授 業 科 目	カテゴリー 4	カテゴリー 3	カテゴリー 2	カテゴリー 1	カテゴリー 0
専門基礎科目	生命倫理学	50	30	20	0	0
	行動科学原論	10	30	60	0	0
	医療入門Ⅱ	35	30	10	25	0
	医療統計学	40	0	0	60	0
	物理学	35	0	0	65	0
	化学	25	0	0	75	0
	生物学	25	0	0	75	0
基礎医学科目	分子生物学Ⅰ	15	0	0	85	0
	分子生物学Ⅱ	10	0	0	90	0
	免疫学	20	0	0	80	0
	人体発生学	15	0	0	85	0
	組織学	70	0	0	30	0
	神経解剖学	15	0	0	85	0
	肉眼解剖学概説	10	0	0	90	0
	肉眼解剖学	70	0	0	30	0
	生化学	30	0	0	70	0
	動物性機能生理学	55	0	0	45	0
	植物性機能生理学	45	0	0	55	0
	薬理学	15	0	0	85	0
	微生物学	70	0	0	30	0
	病理学	50	30	20	0	0
	遺伝医学	25	45	0	30	0
機能・系統別 PBL 科目	地域医療	0	20	25	55	0
	消化器	10	0	15	75	0
	呼吸器	10	0	10	80	0
	循環器	20	20	20	40	0
	代謝・内分泌・腎・泌尿器	20	15	15	50	0
	血液・腫瘍・感染症	20	20	20	40	0
	皮膚・膠原	5	20	25	50	0
	運動・感覚器	15	20	0	65	0
	精神・神経	25	0	25	50	0
	小児・女性	10	15	15	60	0
	救急・麻酔	0	15	20	65	0
	社会医学・医療社会法制	30	5	15	50	0
	臨床入門	5	10	55	30	0
	医学英語	0	0	0	100	0
	総括講義	0	0	0	100	0
臨床実習	臨床実習	60	30	10	0	0
	地域医療実習	70	20	10	0	0
	関連教育病院実習	100	0	0	0	0

8 オフィスアワー一覧

オフィスアワーについて

「オフィスアワー」とは、各教員が学生からの個別相談に応じるために設定しているの時間のことです。授業や学習に関する質問や学生生活・進路相談などについての相談があれば、教員は随時相談に応じるのですが、他の授業や会議、診療などで席を離れるため、常に教員室や研究室に居るとは限りません。

そこで、学生の来訪に備えて教員室や研究室で待機し、相談に応じるのに都合が良い時間帯を「オフィスアワー」として、教員ごとに設定しています。

巻末に、医学部全教員の「オフィスアワー」を示した一覧表を掲載してあります。「オフィスアワー」の曜日、時間帯、連絡先（メールアドレス、内線番号）などが記載されていますので、各教員を訪ねる際に活用してください。なお、建物配置図は「学生便覧」巻末に表示してあるので、参照してください。

学修要項 － Phase I －
(医学部医学科)

編 集 佐 賀 大 学
発 行

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号
電話 (0952) 31-6511 (代表)

佐賀大学医学部医学科